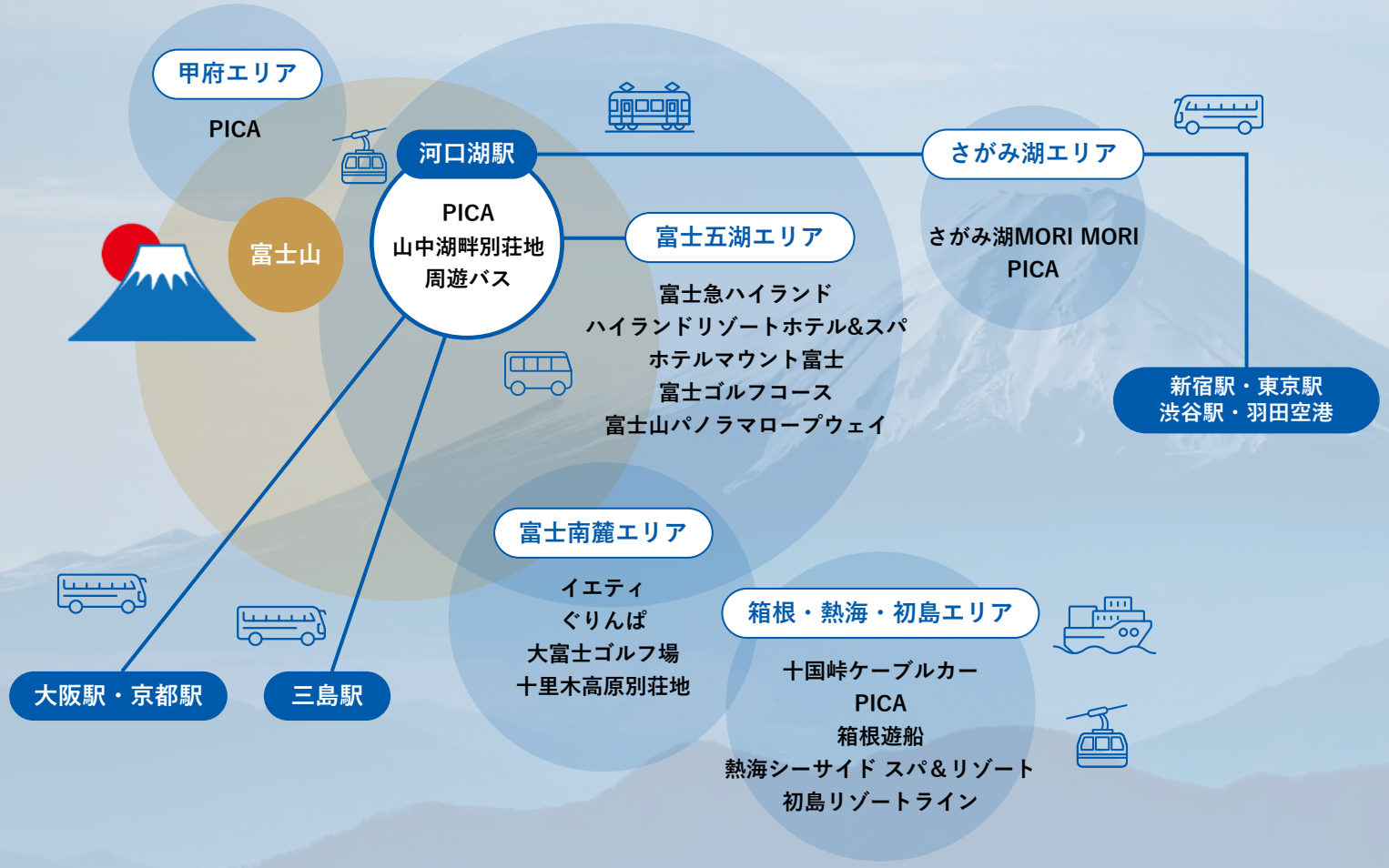


富士急行株式会社

2027年3月期2Q 決算説明資料

2026年11月5日

Greater Mt. Fuji　エリア



富士五湖エリア	
レジャー・サービス業	
遊園地	1
ホテル	5
ゴルフ・スキー	1
アウトドア	4
温泉	1
運輸業	
鉄道	○
高速・周遊バス	○
ハイヤー・タクシー	○
索道（ロープウェイ）	1
船舶	3
不動産	
別荘	○

箱根・熱海・初島エリア	
レジャー・サービス業	
ホテル	1
アウトドア	2
運輸業	
索道	1
船舶	2

富士南麓エリア	
レジャー・サービス業	
遊園地	1
ホテル	1
ゴルフ・スキー	2
アウトドア	2
運輸業	
鉄道	○
高速バス	○
タクシー	○
不動産	
別荘	○

さがみ湖エリア	
レジャー・サービス業	
遊園地	1
アウトドア	1
温泉	1

甲府エリア	
レジャー・サービス業	
アウトドア	1
運輸業	
高速バス	○
タクシー	○

INDEX

01 2027年3月期2Q 決算ハイライト P.4

02 次の100年に向けた取り組み P.9

03 2027年3月期2Q 決算概況
及び2027年3月期 通期業績見通し P.14

04 【ご参考】中期経営計画の概要 P.26

Copyright ©FUJIKYUKO.CO., LTD. All Rights Reserved.

01

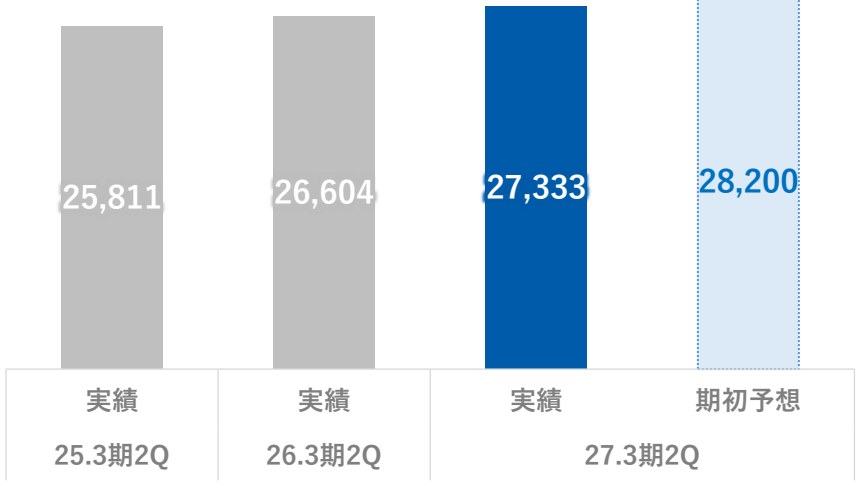
2027年3月期2Q 決算ハイライト

Copyright ©FUJIKYUKO.CO., LTD. All Rights Reserved.

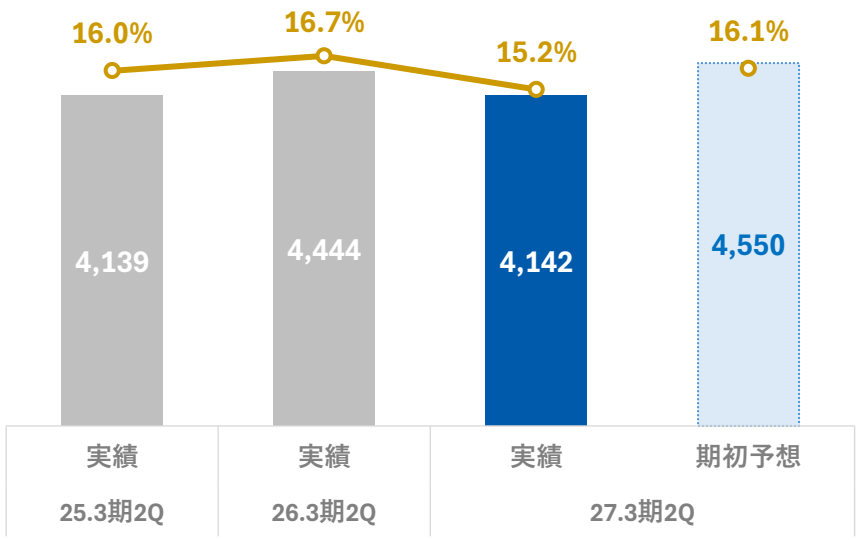
2027年3月期2Q ハイライト

- 前年同期比2.7%の増収、同6.8%の営業減益、計画に対しては営業収益も利益も未達
- 8月中旬からの天候不順の影響が大きく、レジャー・サービス業の利用者だけでなく、運輸業にもマイナスの影響が及んだ

営業収益（百万円）



営業利益/営業利益率（百万円、%）

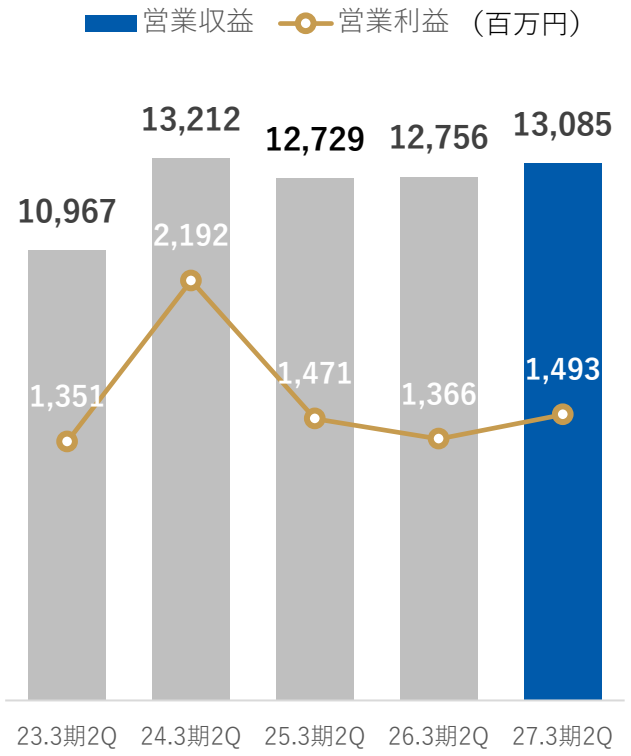


Copyright ©FUJIKYUKO.CO., LTD. All Rights Reserved.

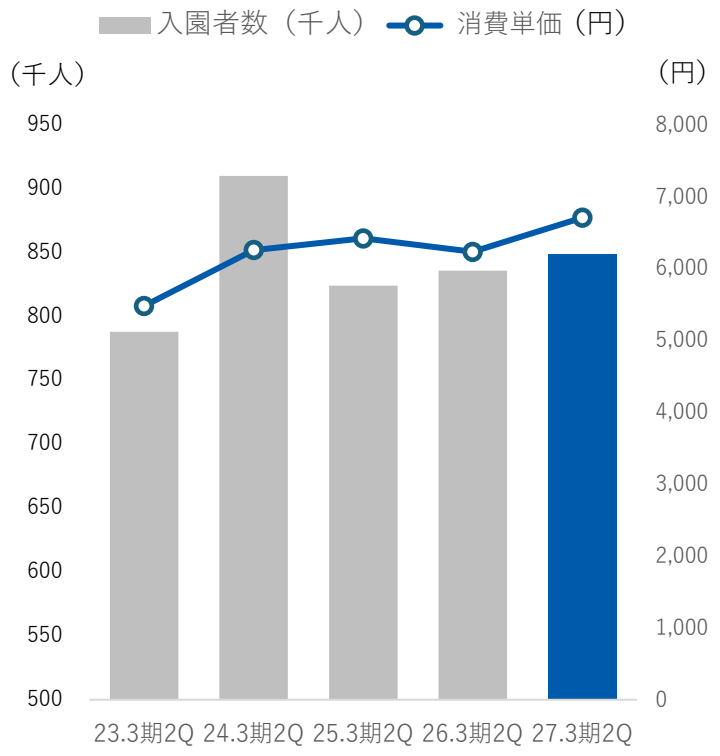
レジャー・サービス業の収益貢献

- 富士急ハイランドの入園者数、単価ともアップした
- 2026年8月オープンのSan-X Paradiseが寄与

レジャーサービス業　営業収益・営業利益



富士急ハイランド



San-X Paradise開業後2カ月間の富士急ハイランド営業成績
（8月～9月の対前年比増減率）

営業収益	入園者数	消費単価
3.6% ↑	3.9% ↓	8.5% ↑



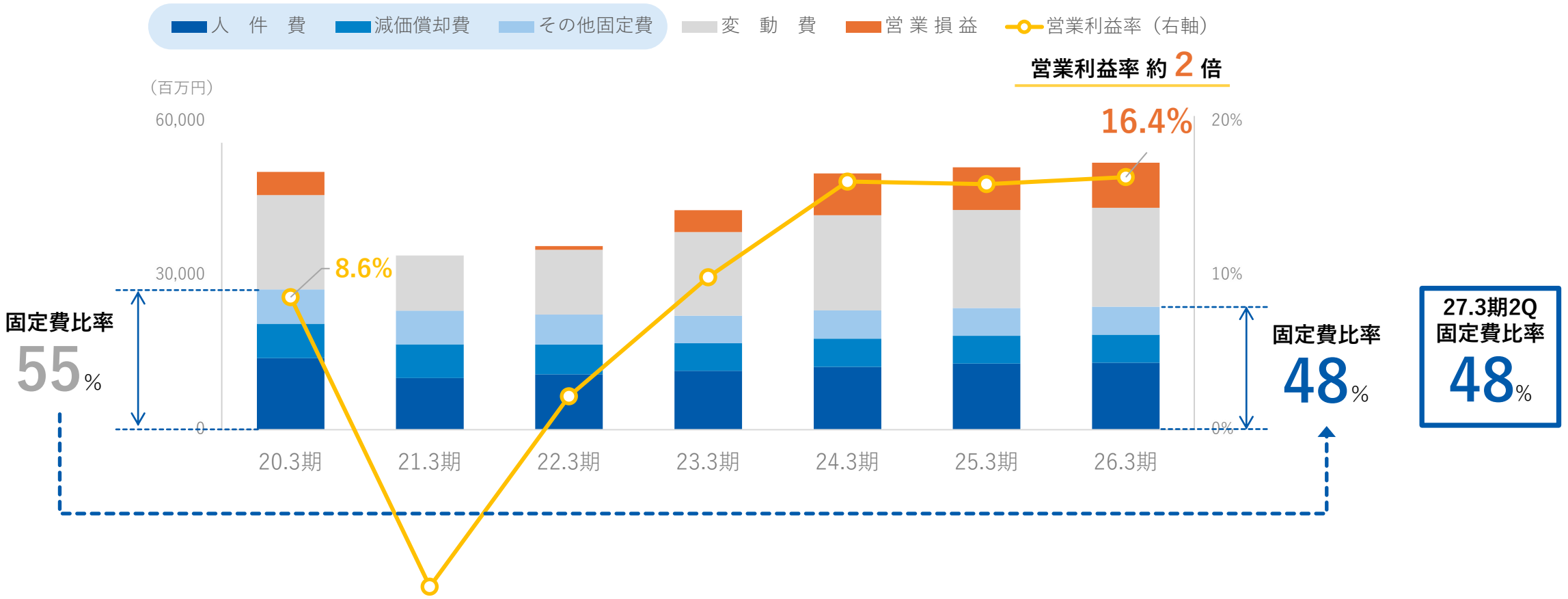
8月1日開業 富士急ハイランド内新テーマエリア
「San-X Paradise」

Copyright ©FUJIKYUKO.CO., LTD. All Rights Reserved.

損益分岐点

●固定費コントロールを徹底し、２Qの固定費比率は48%を維持

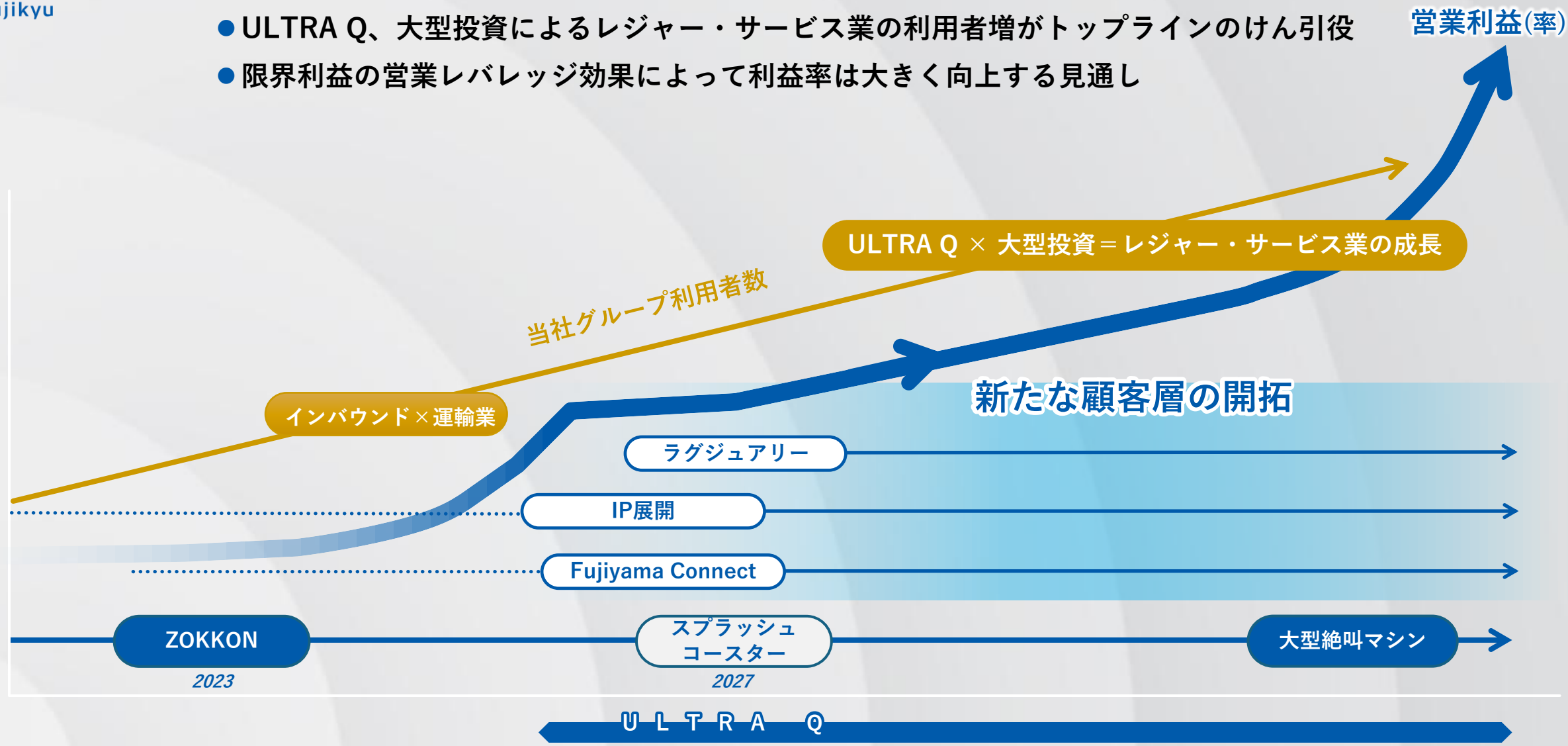
営業利益率の推移と固定費比率



Copyright ©FUJIKYUKO.CO., LTD. All Rights Reserved.

中長期的な成長に向けて

- ULTRA Q、大型投資によるレジャー・サービス業の利用者増がトップラインのけん引役
- 限界利益の営業レバレッジ効果によって利益率は大きく向上する見通し



Copyright ©FUJIKYUKO.CO., LTD. All Rights Reserved.

02

次の100年に向けた取り組み

Copyright ©FUJIKYUKO.CO., LTD. All Rights Reserved.

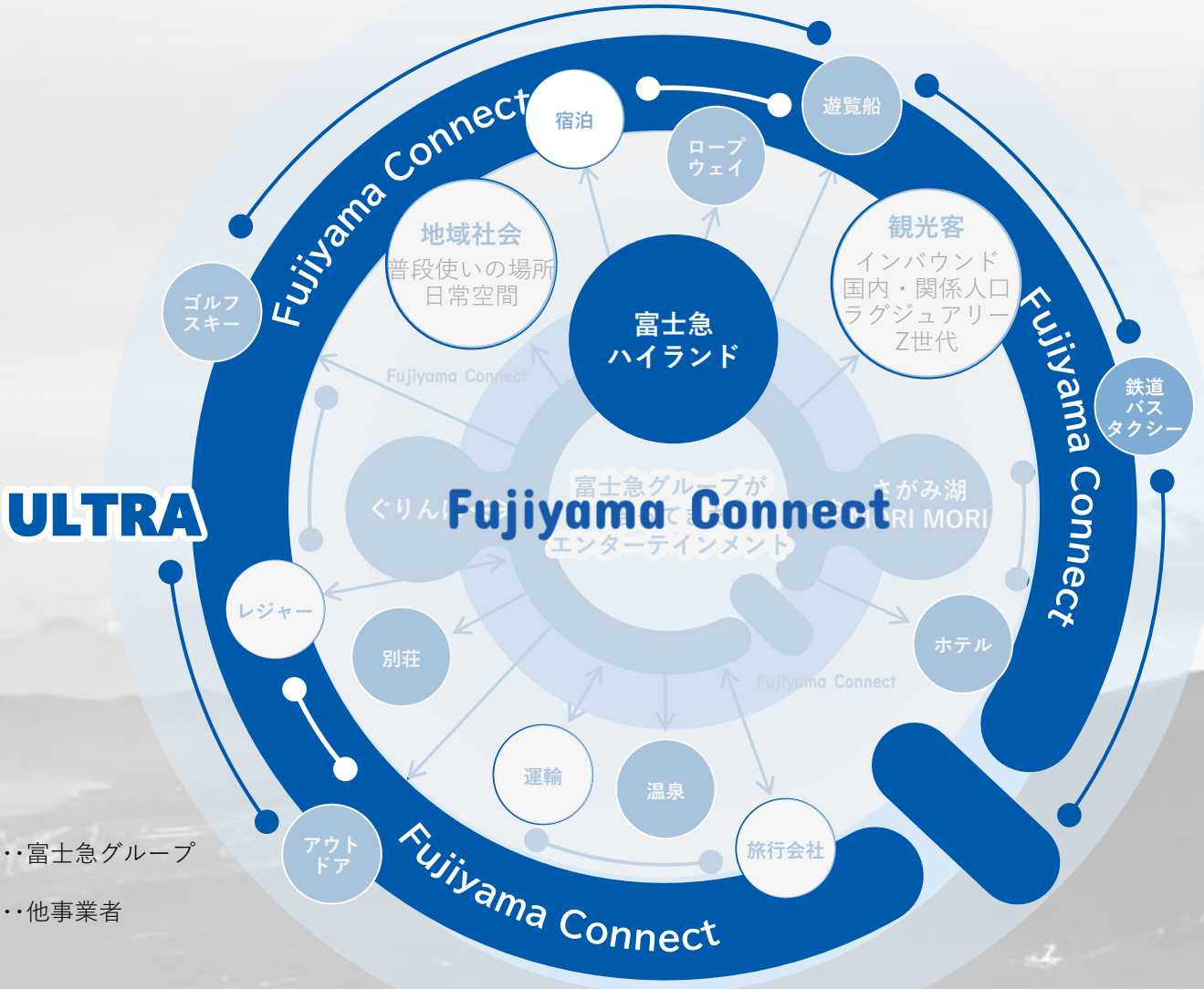
創業100周年　および　次の100年に向けた取り組み

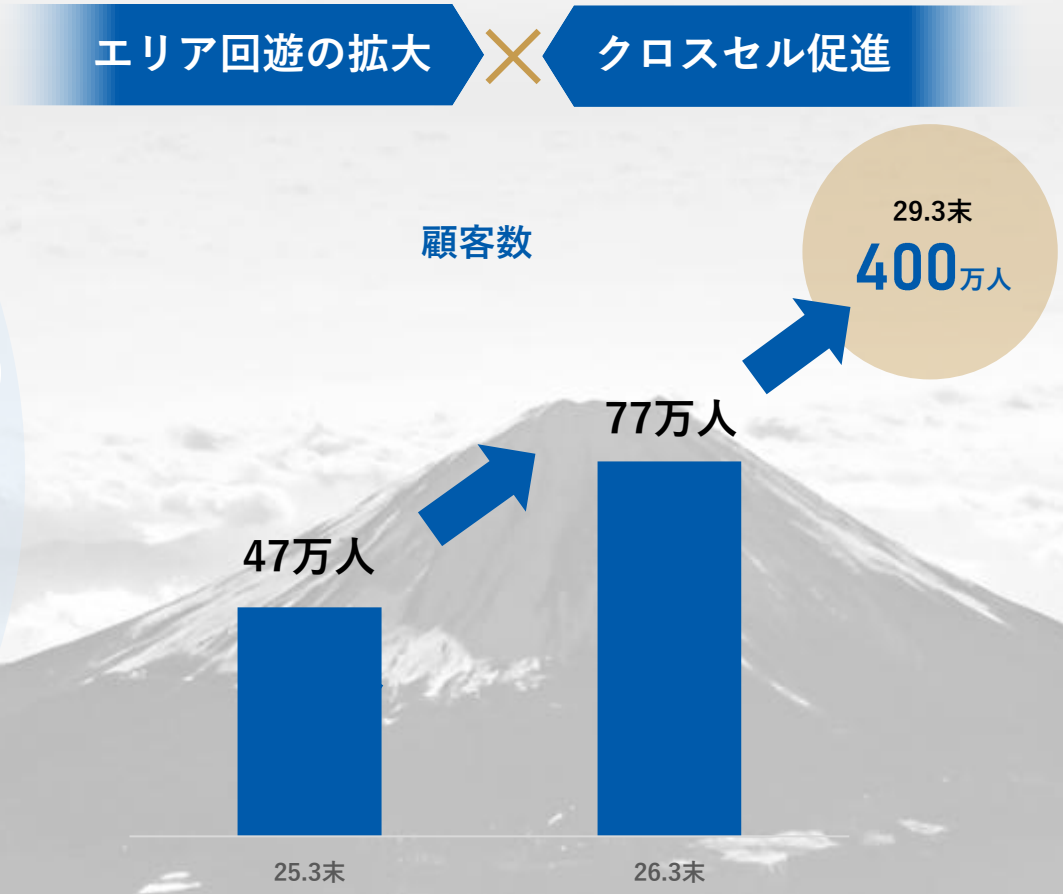


Copyright ©FUJIKYUKO.CO., LTD. All Rights Reserved.

取り組み①　Fujiyama Connect

データに基づく顧客分析とマーケティング施策をグループ横断で推進するプラットフォーム





Copyright ©FUJIKYUKO.CO., LTD. All Rights Reserved.

取り組み②　IP展開



自社IPの展開

戦慄迷宮「迷」

ほぼほぼ
ジェットコースターV

進化するIPコラボレーション



2026.11（予定）

すみっコぐらし ルーム
ハイランドリゾート ホテル＆スパ

2026.8

San-X Paradise
富士急ハイランド

2024

**サンエックス
キャラクターズイルミネーション**
さがみ湖イルミリオン

2022

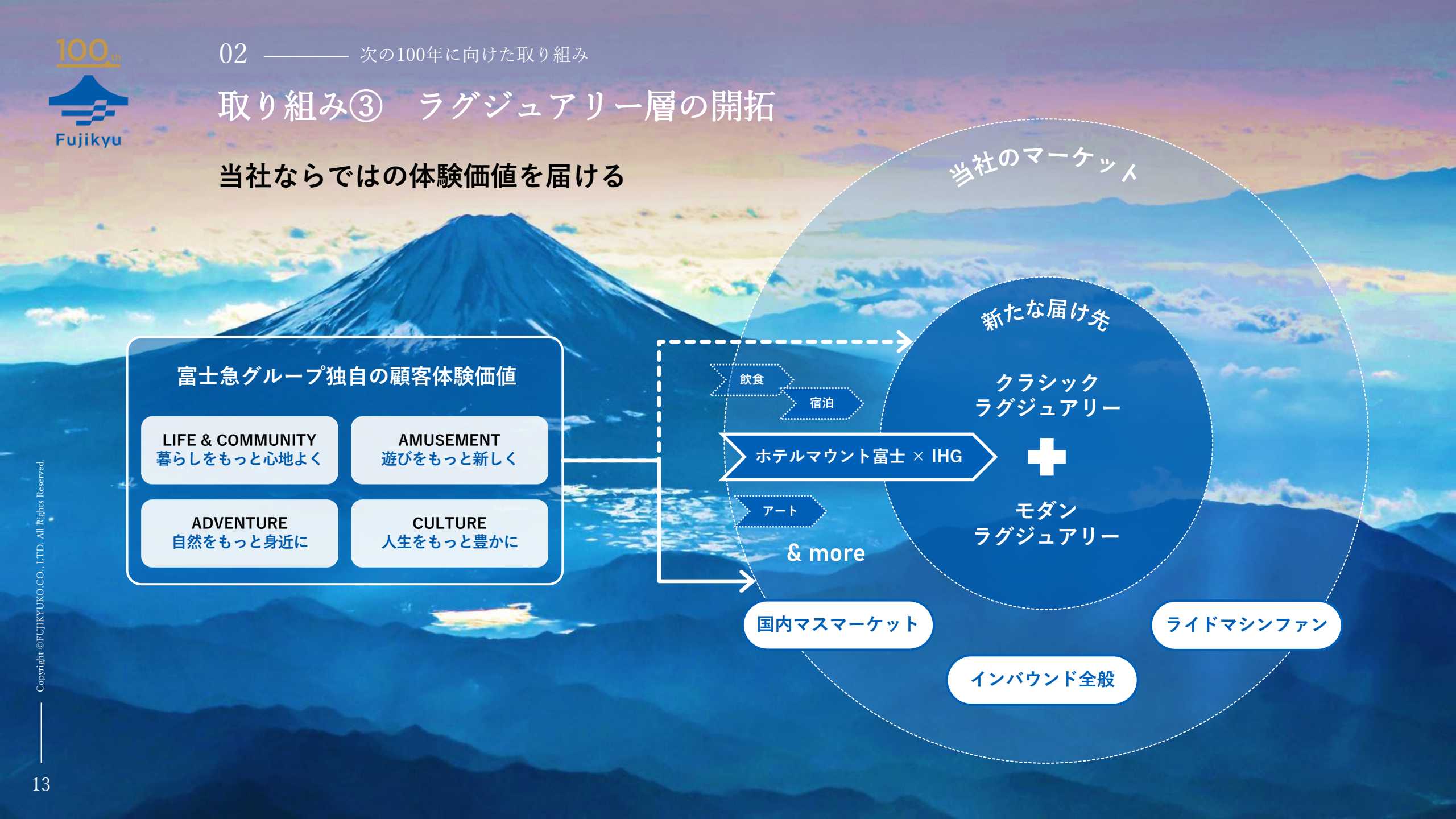
すみっコぐらしイルミネーション
さがみ湖イルミリオン

- 天候に左右されない高収益成長基盤に
- 富士急グループ全体を舞台としてIPコンテンツを最大限に輝かせるエンターテインメント空間に

Copyright ©FUJIKYUKO.CO., LTD. All Rights Reserved.

取り組み③　ラグジュアリー層の開拓

当社ならではの体験価値を届ける



Copyright ©FUJIKYUKO.CO., LTD. All Rights Reserved.

03

2027年3月期2Q 決算概況
及び2027年3月期 通期業績見通し

Copyright ©FUJIKYUKO.CO., LTD. All Rights Reserved.

連結損益計算書の概要

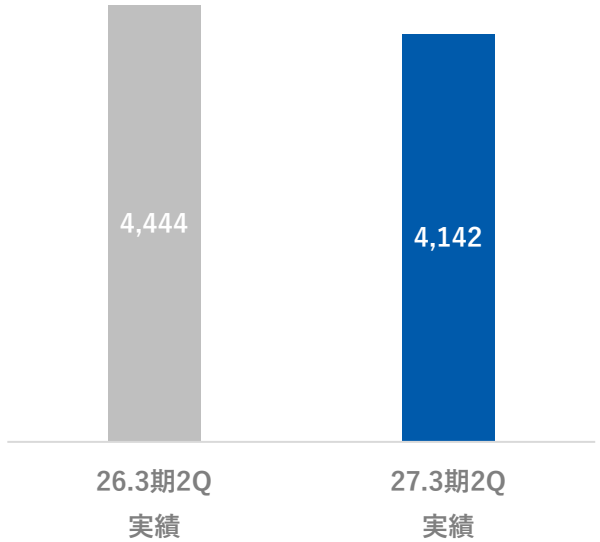
● **天候不順の影響などを受け、前期比2.7%の増収、同6.8%の営業減益**

（百万円）	26.3期2Q	27.3期2Q					
	実績	実績	増減率	差額	期初予想	達成率	差額
営業収益	**26,604**	**27,333**	**2.7%**	**729**	**28,200**	**96.9%**	**△866**
営業利益	**4,444**	**4,142**	**△6.8%**	**△301**	**4,550**	**91.1%**	**△407**
営業利益率	*16.7%*	*15.2%*	-	*△1.5%pts*	*16.1%*		*△0.9%pts*
経常利益	**4,385**	**4,036**	**△8.0%**	**△348**	**4,470**	**90.3%**	**△433**
経常利益率	*16.5%*	*14.8%*	-	*△1.7%pts*	*15.9%*		*△1.1%pts*
親会社株主に帰属する中間純利益	**2,845**	**2,552**	**△10.3%**	**△292**	**2,830**	**90.2%**	**△277**
親会社株主に帰属する中間純利益率	*10.7%*	*9.3%*	-	*△1.4%pts*	*10.0%*		*△0.7%pts*
設備投資額	3,731	5,013	34.4%	1,282			
減価償却費	2,755	2,924	6.2%	169			

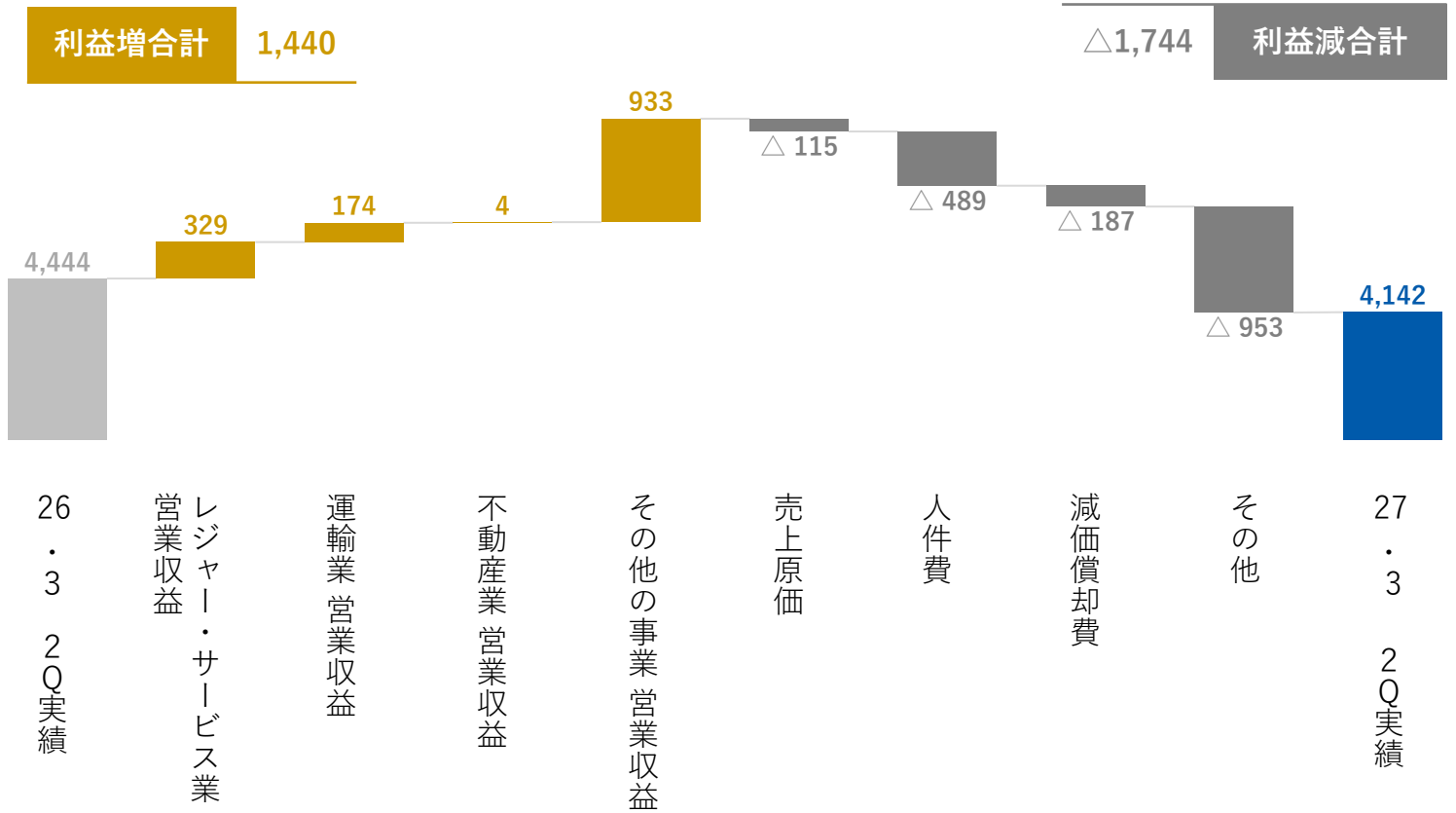
Copyright ©FUJIKYUKO.CO., LTD. All Rights Reserved.

営業利益増減分析

営業利益（百万円）



営業利益増減要因（百万円）



Copyright ©FUJIKYUKO.CO., LTD. All Rights Reserved.

連結貸借対照表・連結キャッシュ・フロー計算書の概要

- **投資CFの4,483百万円の資金支出があったが、フリーキャッシュ・フローは1,212百万円を確保**
- **有利子負債は45,158百万円で、前期末に比べて、1,346百万円の増加**

連結貸借対照表

（百万円）	26.3期末	27.3期2Q末	差額
流動資産	**29,072**	**29,476**	**403**
現金及び預金	12,424	12,528	104
受取手形、売掛金及び契約資産	4,595	4,109	△486
分譲土地建物	8,604	8,632	27
棚卸資産	1,887	2,368	480
その他	1,560	1,837	277
固定資産	**73,701**	**78,832**	**5,130**
有形固定資産	55,948	58,595	2,646
無形固定資産	2,811	2,919	107
投資その他の資産	14,940	17,317	2,376
繰延資産	**13**	**10**	**△2**
資産合計	**102,787**	**108,318**	**5,531**
流動負債	**18,187**	**18,793**	**605**
支払手形及び買掛金	2,822	2,524	△298
短期借入金	7,940	7,816	△123
その他	7,424	8,451	1,027
固定負債	**41,603**	**44,000**	**2,396**
社債	5,000	5,000	0
長期借入金	29,243	30,119	875
その他	7,360	8,881	1,520
負債合計	**59,791**	**62,793**	**3,002**
株主資本	**36,858**	**37,643**	**785**
その他の包括利益累計額	**4,944**	**6,649**	**1,705**
非支配株主持分	**1,193**	**1,231**	**38**
純資産合計	**42,995**	**45,525**	**2,529**
負債純資産合計	**102,787**	**108,318**	**5,531**

連結キャッシュ・フロー計算書

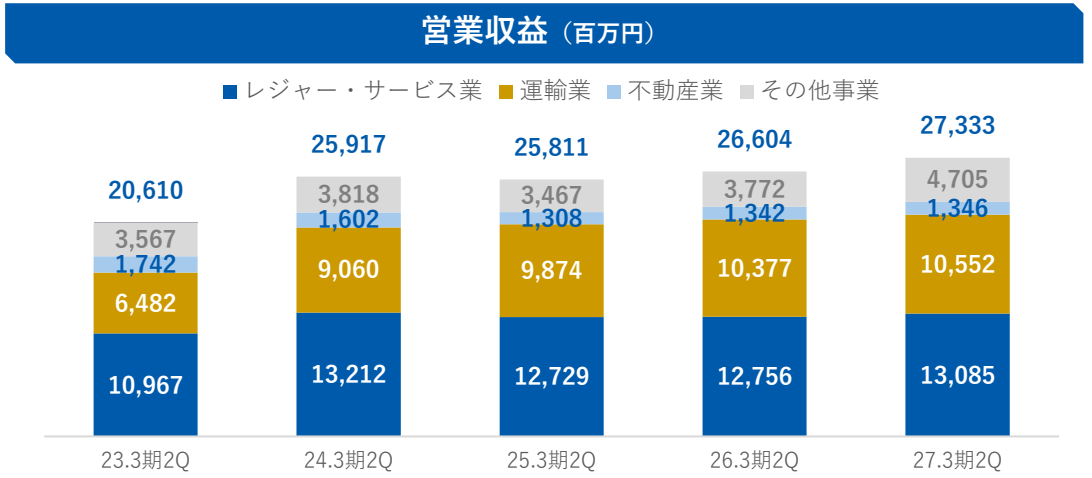
（百万円）	26.3期2Q	27.3期2Q	差額
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,710	5,696	△1,013
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,591	△4,483	△891
財務活動によるキャッシュ・フロー	△6,411	△1,191	5,220
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△3,293	21	3,315
現金及び現金同等物の期首残高	16,702	12,269	△4,432
現金及び現金同等物の中間期末残高	13,408	12,291	△1,117
フリーキャッシュ・フロー	3,118	1,212	△1,905

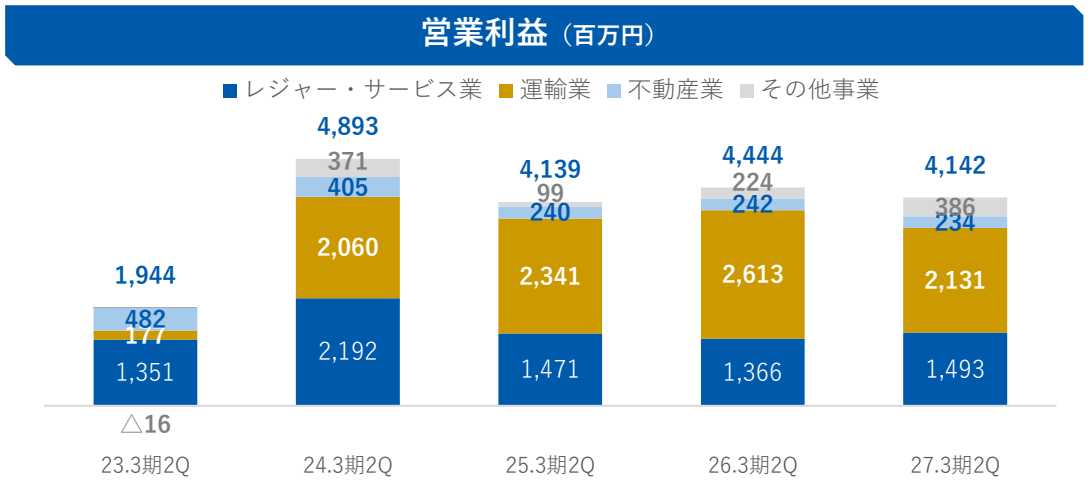
Copyright ©FUJIKYUKO.CO., LTD. All Rights Reserved.

セグメント業績

営業収益（百万円）	26.3期2Q 実績	27.3期2Q 実績	増減率	差額
レジャー・サービス業	12,756	13,085	2.6%	329
運輸業	10,377	10,552	1.7%	174
不動産業	1,342	1,346	0.3%	4
その他の事業	3,772	4,705	24.7%	933
調整額	△1,644	△2,357	-	△712
合計	**26,604**	**27,333**	**2.7%**	**729**

営業利益（百万円）	26.3期2Q 実績	27.3期2Q 実績	増減率	差額
レジャー・サービス業	1,366	1,493	9.3%	126
運輸業	2,613	2,131	△18.4%	△482
不動産業	242	234	△3.1%	△7
その他の事業	224	386	72.7%	162
調整額	△1	△103	-	△101
合計	**4,444**	**4,142**	**△6.8%**	**△301**



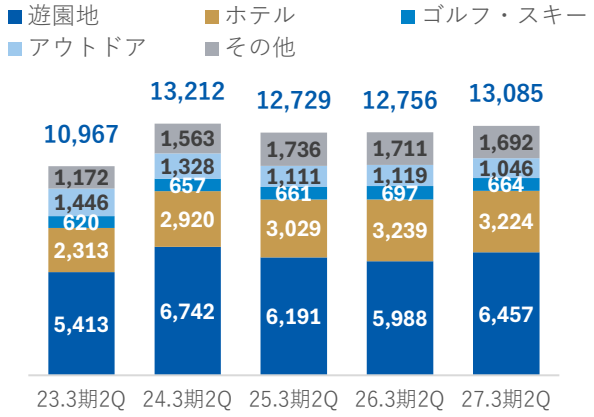


Copyright ©FUJIKYUKO.CO., LTD. All Rights Reserved.

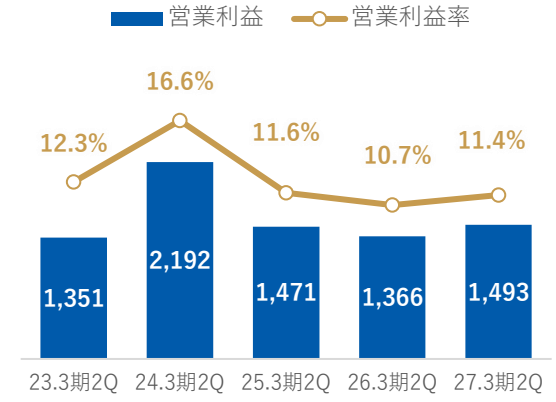
レジャー・サービス業

● 営業収益は2.6%増、営業利益は9.3%の増益

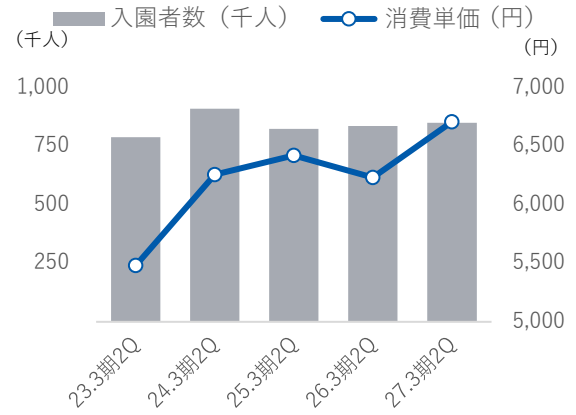
事業別営業収益（百万円）



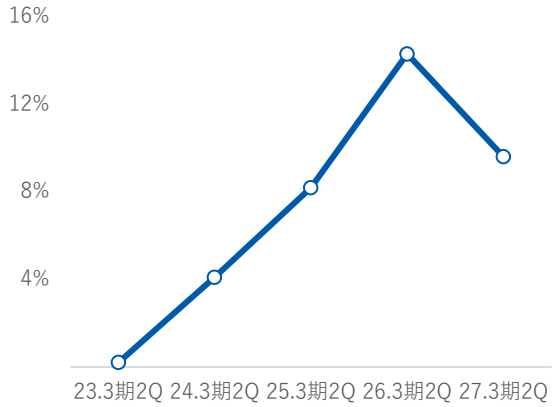
営業利益、営業利益率（百万円、%）



富士急ハイランド　利用状況



富士急ハイランド　外国人比率



● 富士急ハイランド

- ✓ サンエックスキャラクターの世界観を常設でお楽しみいただける新エリア「**San-X Paradise**」を開業
- ✓ 猛暑対策として、赤城乳業株式会社と初めてタッグを組み、ガリガリ君presents「**極寒体験！フローズンズン君**」を開催
- ✓ 園内セントラルパークに大型イベントステージ「**Q-STAGE**」を設置し、地域連携イベントや各種コラボレーション企画を開催
- ✓ 公式有料ファンコミュニティ「**絶叫界隈**」を開設し、コアファンとの継続的な関係構築を推進
- ✓ アトラクション「**スカイサイクル**」を、新たに音楽と光の演出を加えた空中サイクル「**キラリンコ**」としてリニューアルオープン

● さがみ湖 MORI MORI

- ✓ 日本最大級のネットクライミングアスレチック「**モリモリノボル**」をオープン

● ホテル事業

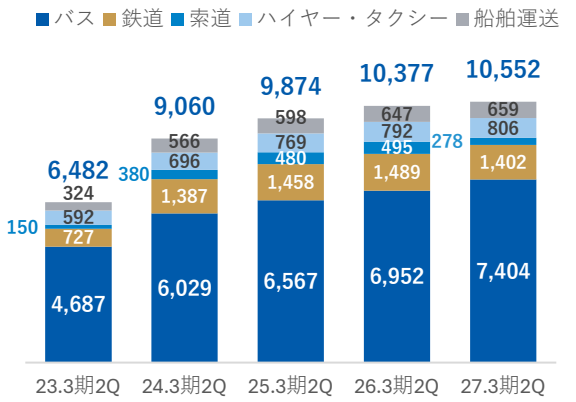
- ✓ 「**ハイランドリゾートホテル＆スパ**」では、宴会場「**芙蓉の間**」を全面改装し、ガーデンテラスを併設した新バンケット「**garden banquet KOMOREBI**」を開業。
- ✓ 「**ふじやま温泉**」では、6月に発生した地震により施設の一部に損傷が確認されたため、休館中

Copyright ©FUJIKYUKO.CO., LTD. All Rights Reserved.

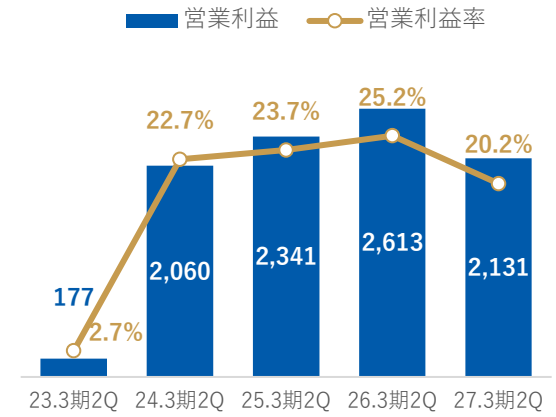
運輸業

●天候不順の影響などを受けたものの、高速バス事業がけん引したバス事業の増収などにより、1.7%の増収

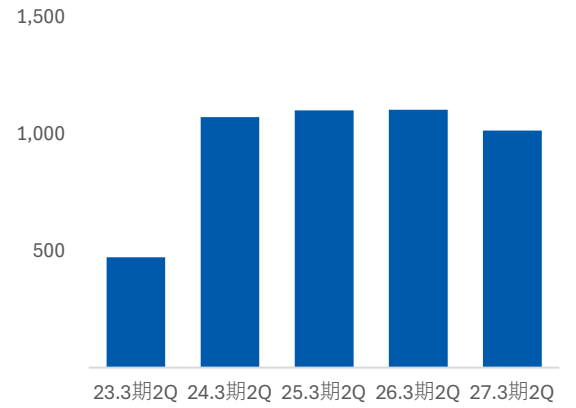
事業別営業収益（百万円）



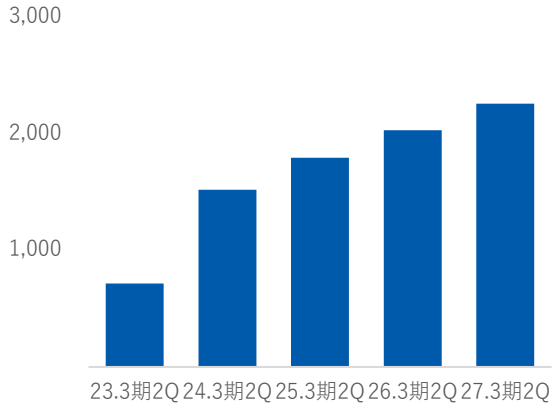
営業利益、営業利益率（百万円、%）



富士急行線 定期外旅客運輸収入（百万円）



高速バス事業　営業収益（百万円）



- **鉄道事業**
  継続的な沿線の魅力発信に加え「**サンエックス パラダイス開業記念号**」の運行や、「**マッターホルン号**」をリニューアル運行し、話題醸成に努めた

- **バス事業**
  - ➢ **富士登山客の増加に伴って富士登山バスの利用者が増加**
  - ➢ **バスタ新宿の発着枠増加により、利便性の向上を図った**
    - ✓ 「**新宿～富士五湖線**」の増便
    - ✓ 「**富士山五合目線**」深夜便の新設
  - ➢ **乗務員制服をリニューアル**
  - ➢ **水陸両用バスでは、新車両「オープンKABA」２台の運行を開始**

- **索道事業**
  - ✓ 「**富士山パノラマロープウェイ**」が更新工事で約2か月間運休
  - ✓ 新名所「**ご利益広場**」「**絶景展望階段**」をオープン

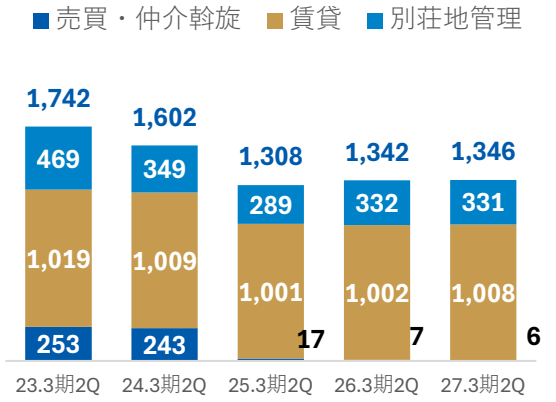
- **船舶事業**
  - ✓ 河口湖において、大石公園と船津桟橋を結ぶ新航路「**大石公園ライン**」の運航を開始

Copyright ©FUJIKYUKO.CO., LTD. All Rights Reserved.

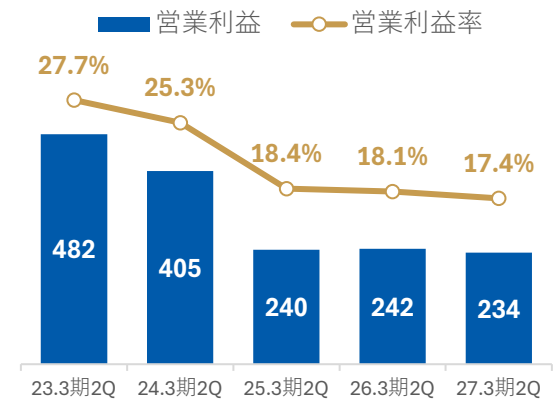
不動産業

●売買・仲介斡旋事業の状況は変わらず、0.3%の増収、3.1%の営業減益

事業別営業収益（百万円）



営業利益、営業利益率（百万円、%）









● 賃貸事業

- ✓ 既存賃貸施設の改修や計画的なメンテナンス修繕工事などを行い、安定的な収益の確保

● 売買・仲介斡旋事業

- ✓ 山中湖畔別荘地において、山梨県より、別荘取得希望者への土地の転貸承認申請に対して、承認が得られない状態が継続
- ✓ これまでの当社による各種法的手続を踏まえて、山梨県は10月に方針を転換し、留保していた土地転貸承認を認める意向を表明して、取引が再開

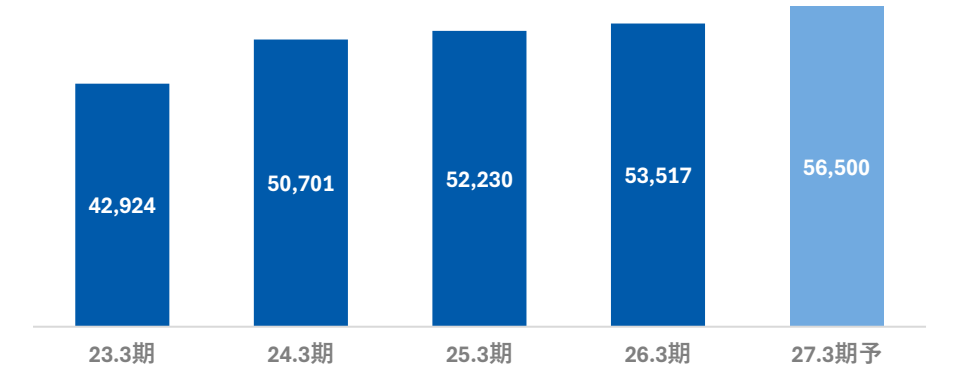
Copyright ©FUJIKYUKO.CO., LTD. All Rights Reserved.

2027年3月期 通期業績見通し

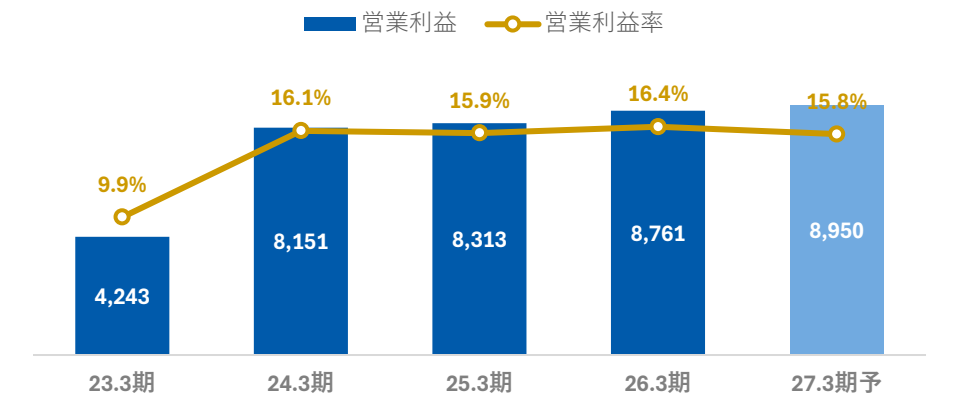
●期初予想から修正はなし

（百万円）	26.3期 実績	27.3期予 予想	増減率	差額
営業収益	**53,517**	**56,500**	**5.6%**	**2,983**
営業利益	**8,761**	**8,950**	**2.2%**	**188**
営業利益率	*16.4%*	*15.8%*	-	*△0.6pts*
経常利益	**8,617**	**8,620**	**0.0%**	**3**
経常利益率	*16.1%*	*15.3%*	-	*△0.8pts*
親会社株主に帰属する当期純利益	**5,798**	**5,750**	**△0.8%**	**△49**
当期純利益率	*10.8%*	*10.2%*	-	*△0.6pts*
設備投資額	9,058	15,331		
減価償却費	5,569	6,326		
一株当たり利益	109.20円	108.29円		
一株当たり配当	32円	33円		

営業収益（百万円）



営業利益、営業利益率（百万円、%）



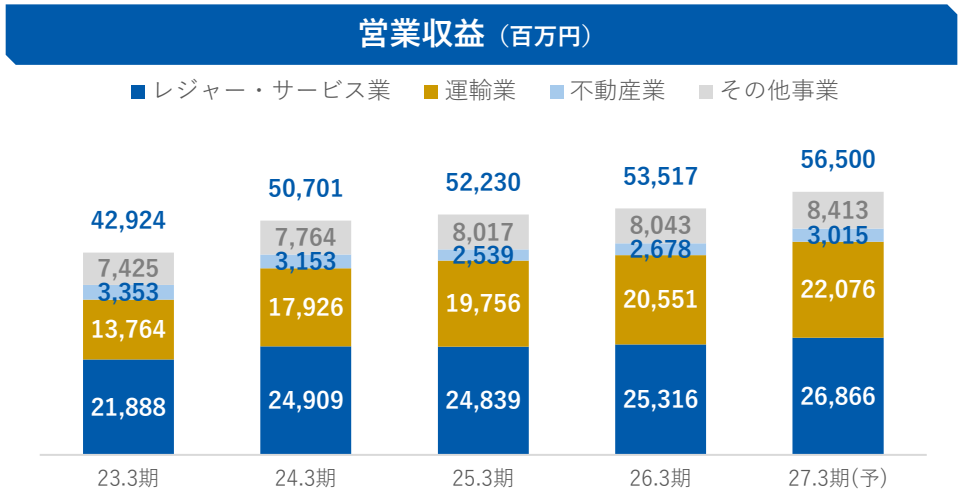
Copyright ©FUJIKYUKO.CO., LTD. All Rights Reserved.

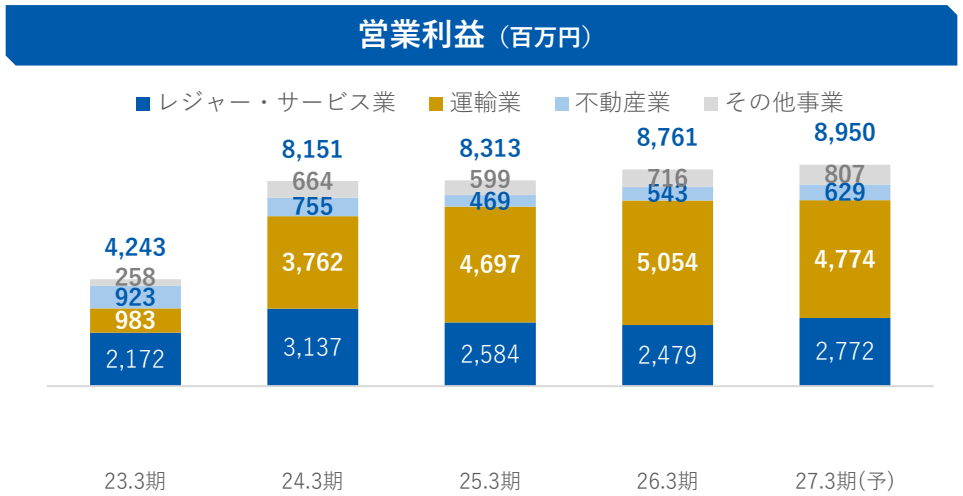
2027年3月期 通期業績見通し（セグメント別）

●期初予想から修正はなし

営業収益（百万円）	26.3期	27.3期予		
	実績	予想	増減率	差額
レジャー・サービス業	25,316	26,866	6.1%	1,549
運輸業	20,551	22,076	7.4%	1,525
不動産業	2,678	3,015	12.6%	337
その他の事業	8,043	8,413	4.6%	370
調整額	△3,072	△3,870	-	△798
合計	53,517	56,500	5.6%	2,983

営業利益（百万円）	26.3期	27.3期予		
	実績	予想	増減率	差額
レジャー・サービス業	2,479	2,772	11.8%	292
運輸業	5,054	4,774	△5.5%	△281
不動産業	543	629	15.8%	85
その他の事業	716	807	12.7%	90
調整額	△32	△32	-	1
合計	8,761	8,950	2.2%	188

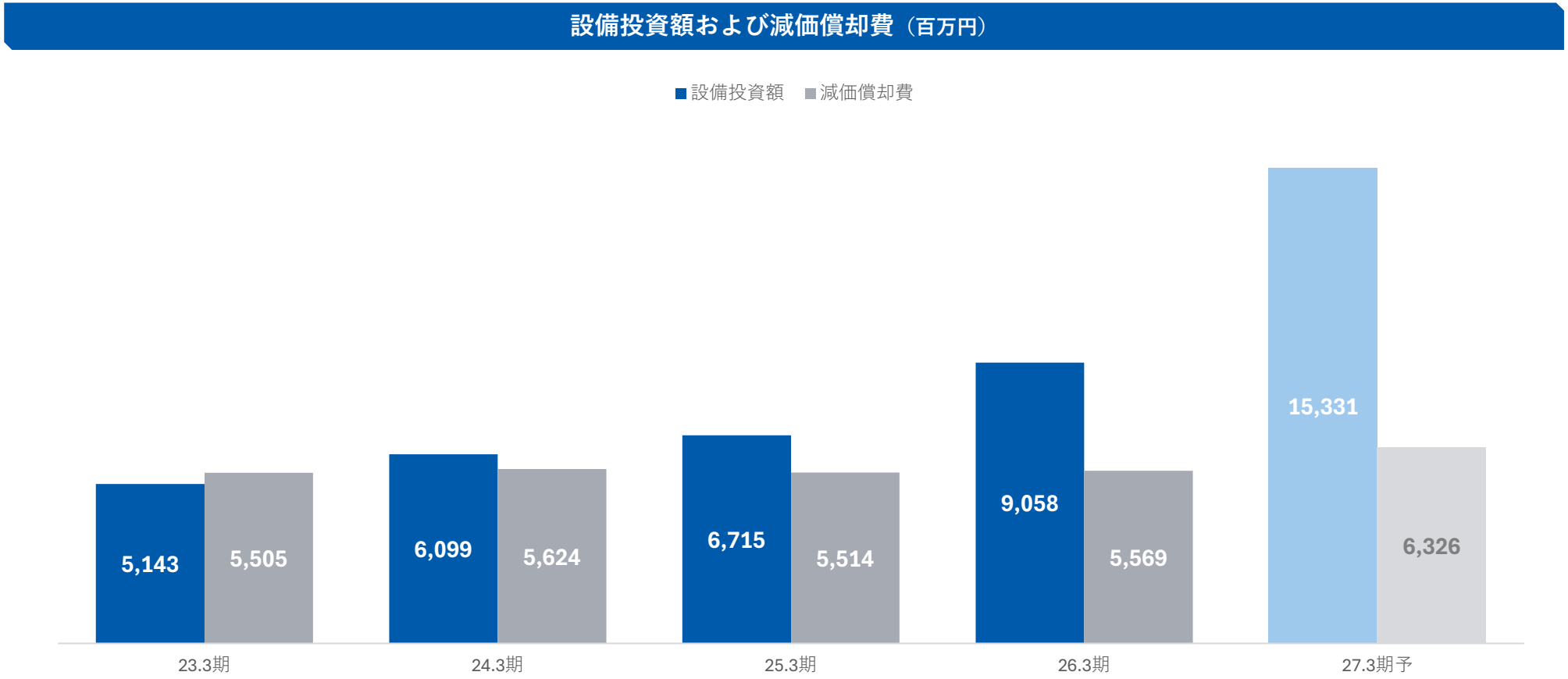




Copyright ©FUJIKYUKO.CO., LTD. All Rights Reserved.

設備投資額・減価償却費

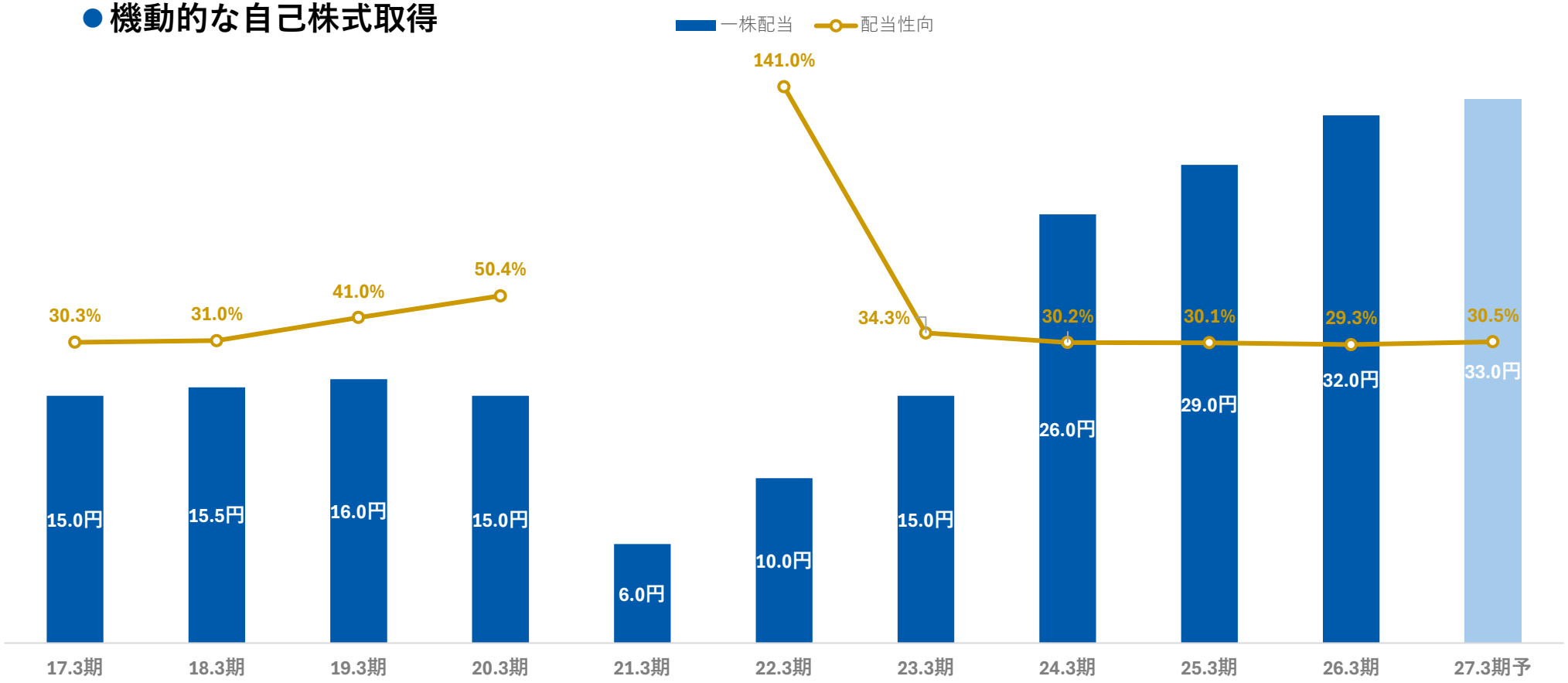
●27年3月期は過去最高の15,331百万円を計画



Copyright ©FUJIKYUKO.CO., LTD. All Rights Reserved.

株主還元

- 継続的かつ安定的な配当を行うことを基本方針とする
- 業績やDOE、連結配当性向30％を目途に総合的に勘案し、利益成長による配当額の増加を目指す
- 機動的な自己株式取得



※2017年10月1日付で株式併合を行ったため、比較のため、過去の配当額を当期と同じ基準で表記しております

Copyright ©FUJIKYUKO.CO., LTD. All Rights Reserved.

04

【ご参考】現中期経営計画（27.3期～30.3期）の概要

Copyright ©FUJIKYUKO.CO., LTD. All Rights Reserved.

「わくわくの最高峰へ」に向けて

テーマ リブート

✓ 富士急の原点に回帰し、富士急にしかできないことを具現化する

ターゲットエリア Greater Mt. Fuji

✓ 富士五湖～静岡、箱根を含めた神奈川、東京までの広大なエリアのバリューアップ

中核プロジェクト

✓ ULTRA Q



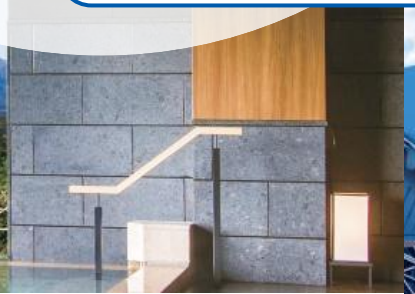
Copyright ©FUJIKYUKO.CO., LTD. All Rights Reserved.

富士 ∞ 不二

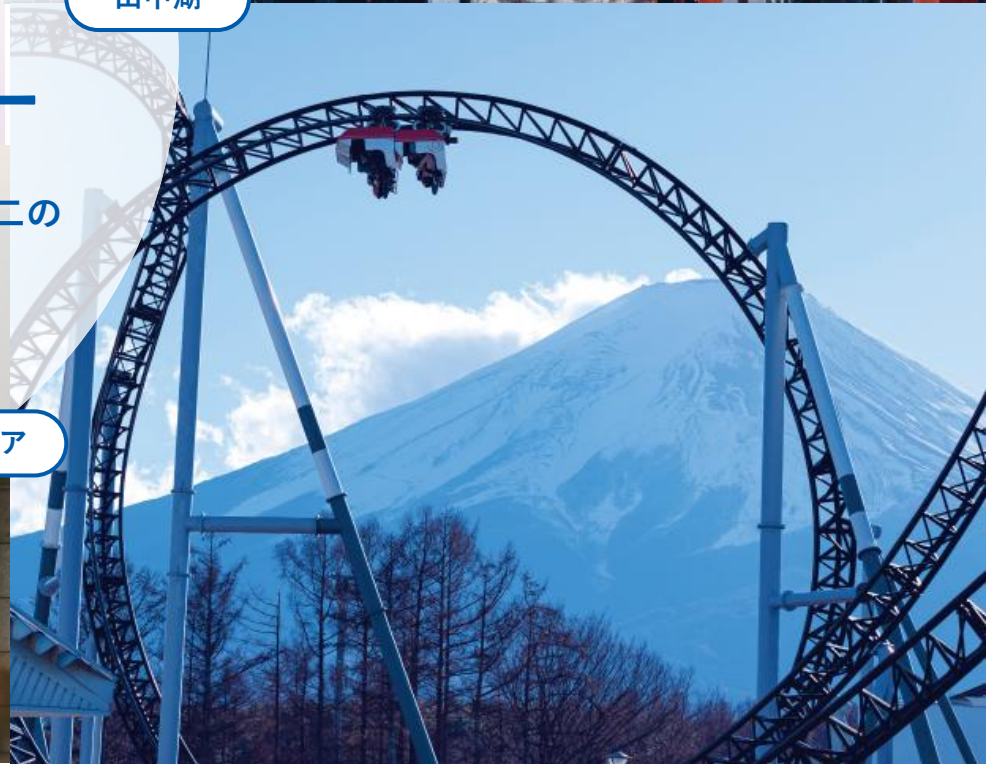












河口湖

本栖湖

富士急ハイランド

山中湖

Fujikyu Group

最良の富士山ビュー

富士五湖～静岡、箱根を含めた唯一無二の
ロケーションに事業基盤を有する

箱根・熱海・初島エリア

Copyright © FUJIKYUKO.CO., LTD. All Rights Reserved.

コアコンピタンス



喜び



遊び



爽快

ENTERTAINMENT

Fujikyu Group

足を持った観光会社

導線設計、価格設定、顧客体験を一体設計できる優位性

送客 → 滞在 → 消費

×

ベンチャースピリット

「スピード」「オリジナリティ」「チャレンジ精神」で
他社がやらないこと・考えつかないことを実践

感動



絶景

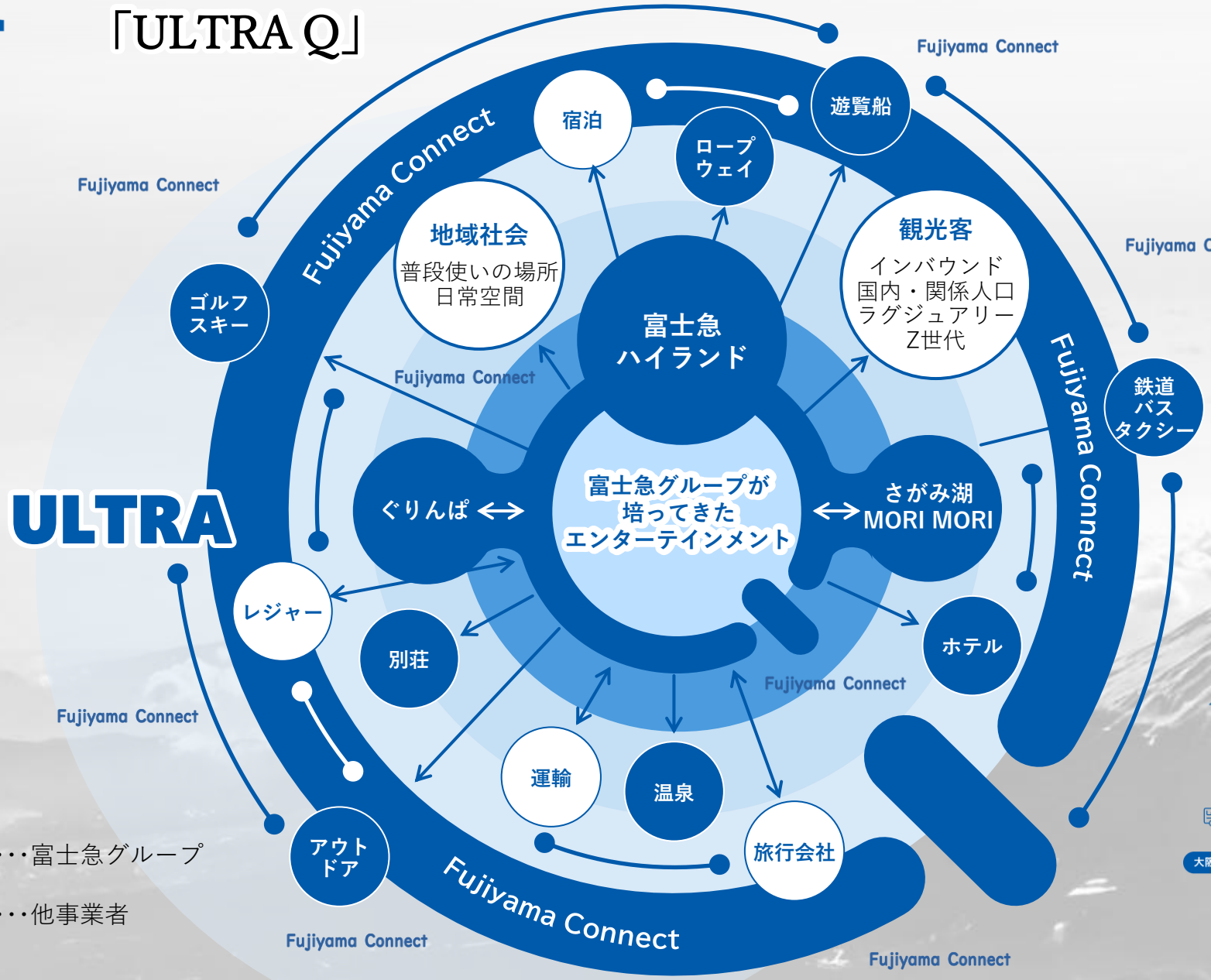


絶叫

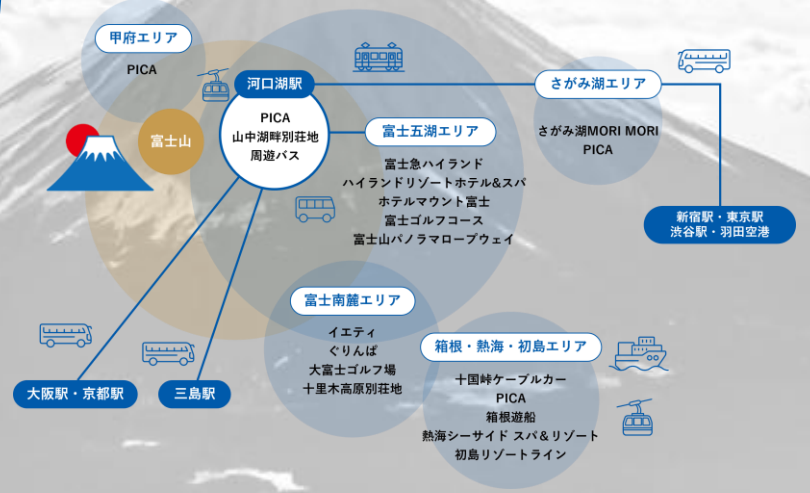


Copyright ©FUJIKYUKO.CO., LTD. All Rights Reserved.

「ULTRA Q」



Greater Mt.Fujiエリア アミューズメント化



Copyright ©FUJIKYUKO.CO., LTD. All Rights Reserved.

主な投資計画

● 富士急グループの魅力UPと輸送力増強に、３年総額 約386億円の投資を計画

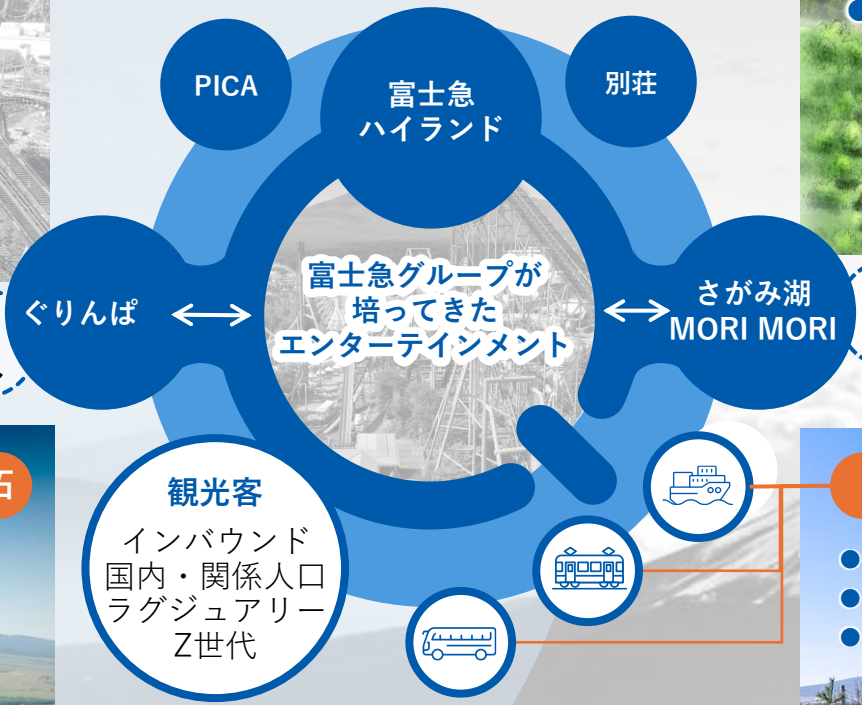
ライドパークの進化

● 富士急ハイランド
新大型アトラクション：39億円



ぐりんぱ
新アクティビティ導入

● PICA PICKLE FUJISAIKO
● PICA初島 宿泊施設リニューアル



IP展開

● 富士急ハイランド
サンエックスパラダイス：25億円



さがみ湖MORI MORI
新アクティビティ導入

インバウンド・グローバルラグジュアリー開拓

● ホテルマウント富士
IHG「ヴィニェットコレクション」に参画
● プレミアシート付き高速バス車両導入
● フジヤマ INN コニファー新棟増設



収益力向上

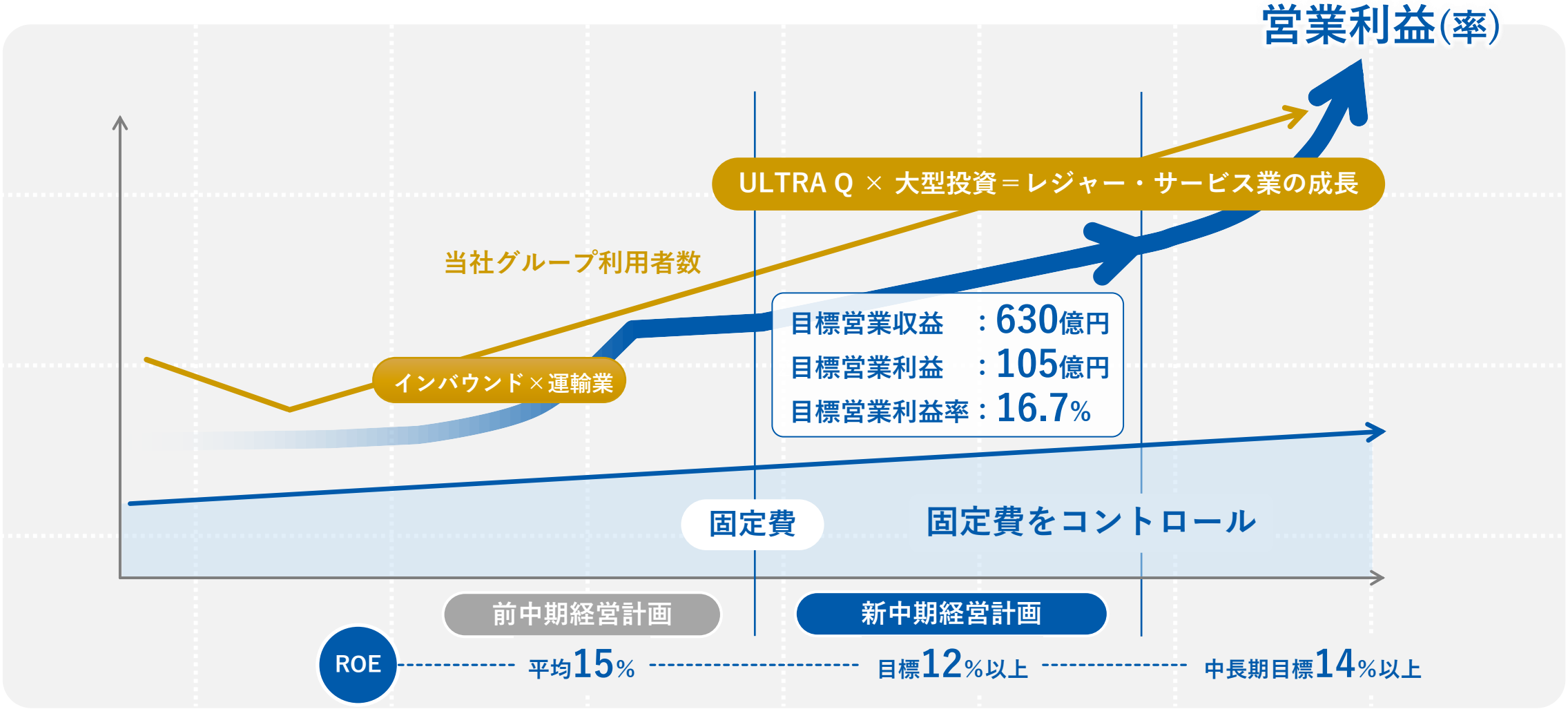
● 富士急行線寿駅・行き違い設備新設：10億円
● バス新車両導入：47億円
● 十国峠スロープカー導入：8億円



Copyright ©FUJIKYUKO.CO., LTD. All Rights Reserved.

中長期業績イメージ

● 限界利益の営業レバレッジ効果が営業利益率を押し上げ、資本効率を最大化



Copyright ©FUJIKYUKO.CO., LTD. All Rights Reserved.

新中期経営計画の全体像

目指すもの（創業精神）	富士を世界に拓く
想い（タグライン）	わくわくの最高峰へ
中計テーマ	REBOOT（原点回帰）
主要財務指標	経営目標

重点方針

1. 顧客体験価値を起点としたビジネスの再構築
2. 将来CFの極大化に向けた成長投資強化
3. 組織横断型エンタメ注入プロジェクトの推進

重点施策

1. レジャー・サービス業
2. 運輸業
3. 安全
4. 人材戦略

Copyright ©FUJIKYUKO.CO., LTD. All Rights Reserved.

重点方針

1 顧客体験価値を起点としたビジネスの再構築

- 4つの顧客体験価値に基づくターゲットの拡大と深化
- 「Fujiyama Connect」を中心としたデータマーケティングの強化や、グループ内外の連携強化によるクロスセル促進

2 将来CFの極大化に向けた成長投資強化

- 収益源かつ成長ドライバーである「レジャー・サービス」「運輸」を中心とした大規模な成長投資による将来CFの極大化
- 資本コスト経営の実践に向けて、適切なBSマネジメントを行い、更なる企業価値向上を目指す

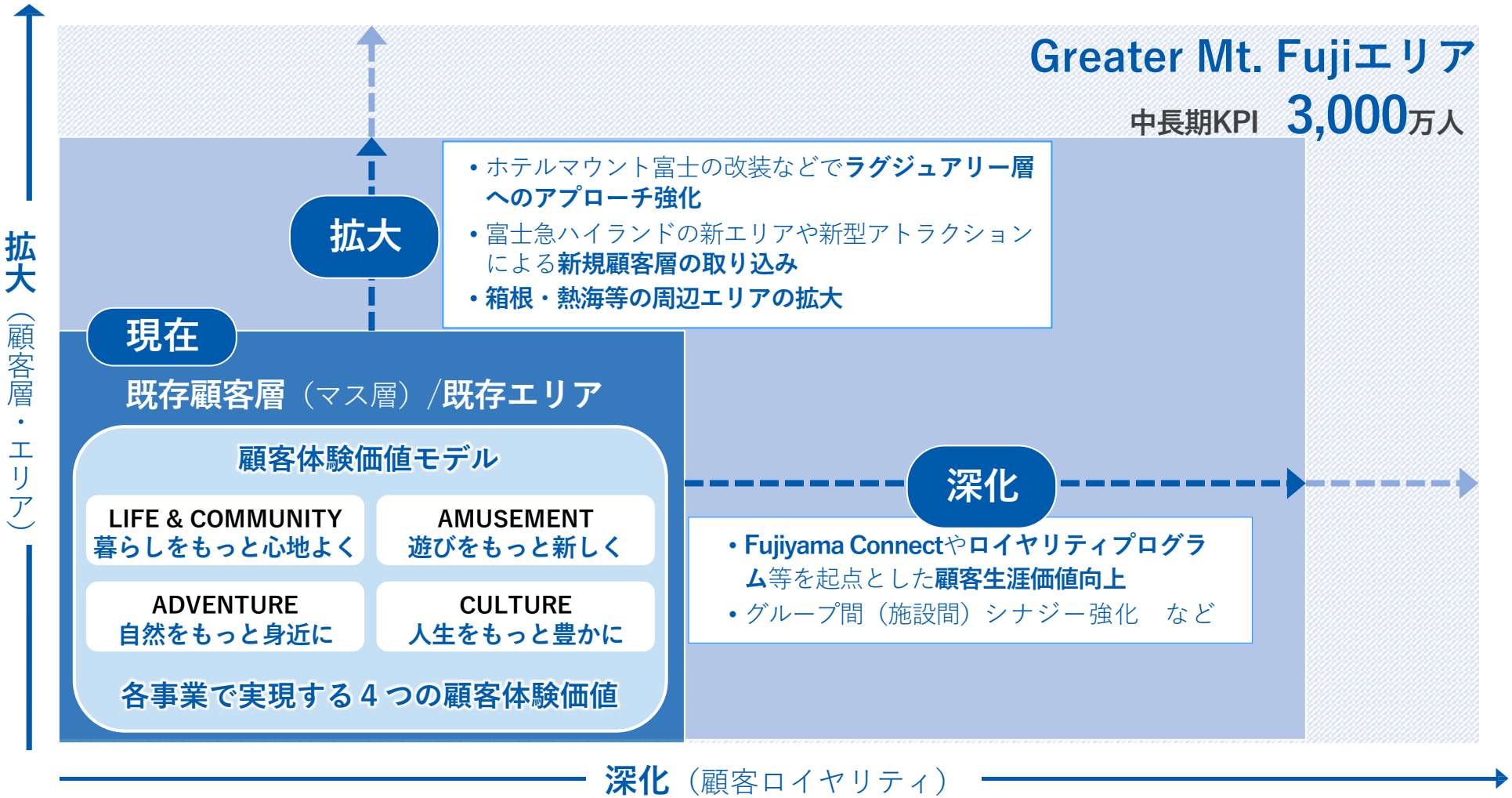
3 組織横断型エンタメ注入プロジェクトの推進

- グループ内外の連携を通じた顧客体験価値（CLTV）向上に向けて、中核プロジェクトを適時組成し、創造的かつ機動的に推進
- その1つとして、富士急ハイランド・さがみ湖MORIMORI・ぐりんぱの3遊園地を始めとする、当社が有するアミューズメントパーク機能（エンターテインメント性）を他施設・サービスまで広げ、繋げる（当社保有施設間のクロスセル等）ことを目的とした中核プロジェクト「ULTRA Q」を始動

Copyright ©FUJIKYUKO.CO., LTD. All Rights Reserved.

重点方針1.　顧客体験価値を起点としたビジネスの再構築

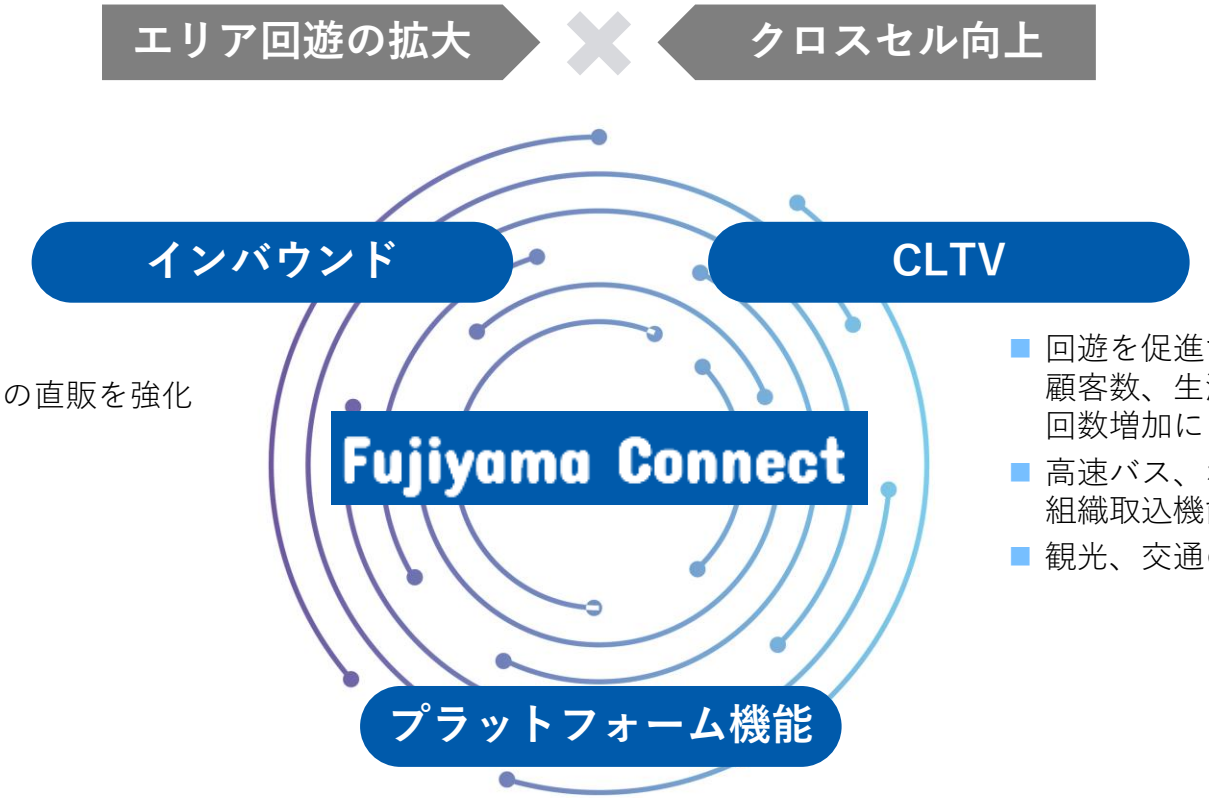
- 当社グループの事業を4つの顧客体験価値を起点としたビジネスへ再構築
- 顧客起点でターゲットの拡大と深化を図る



Copyright ©FUJIKYUKO.CO., LTD. All Rights Reserved.

重点方針1.　顧客体験価値を起点としたビジネスの再構築

- **Fujiyama Connectをプラットフォームとして、データに基づく顧客理解とマーケティング施策をグループ横断で推進**



- 海外OTAとの連携
- Fujiyama Connectでの直販を強化

- 回遊を促進するセット商品を造成することで、顧客数、生涯リピート率の向上、平均施設利用回数増加により、延べ利用者数を拡大
- 高速バス、ホテル予約との連携や国内二次会員組織取込機能のデジタル化
- 観光、交通の予約をセットで提案

- SEKITORIとの連携強化
- 富士急グループ外の多数の施設とも連携

Copyright ©FUJIKYUKO.CO., LTD. All Rights Reserved.

重点方針2.　将来CFの極大化に向けた成長投資強化

● **収益源かつ成長ドライバーである、レジャー・サービス業と運輸業を中心に、積極的な成長投資を実行することで、将来CFの極大化を図る**

レジャー・サービス業

遊園地事業

富士急ハイランド	• サンエックスパラダイス • 大型アトラクション
相模湖リゾート	• 新アクティビティ • パノラマロッジ改修
フジヤマリゾート	• 新アクティビティ

ホテル事業・アウトドア事業

ハイランドリゾート	• バンケットルームリニューアル • キャラクタールーム
ホテルマウント富士	• IHGホテルリニューアル
PICA	• PICA PICKLE FUJISAIKO • PICA初島宿泊施設リニューアル

その他

十国峠	• スロープカー

運輸業

鉄道事業

富士山麓電気鉄道	• 寿駅行き違い設備新設

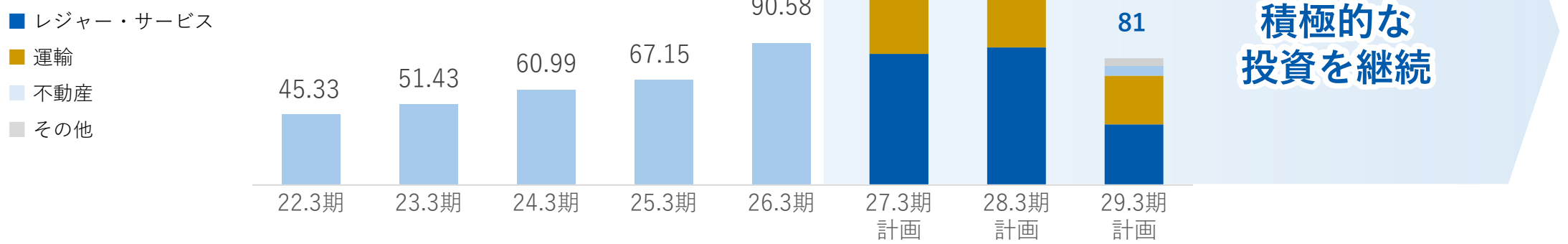
索道事業

富士山 パノラマロープウェイ	• 山頂エリアリニューアル • 支索・緊張索交換工事

バス事業

乗合バス 水陸バス 高速バス	• 新車両導入（計100両）

設備投資計画（億円）



Copyright ©FUJIKYUKO.CO., LTD. All Rights Reserved.

重点方針3.　組織横断型エンタメ注入プロジェクトの推進

● 組織横断型エンタメ注入プロジェクトを推進することで、
組織間連携をシームレスに行うことができる体制へ転換

ULTRA Qの推進

Phase ❶

富士急グループ
アミューズメント化・
シームレス化



Phase ❷

地域・他事業者との連携

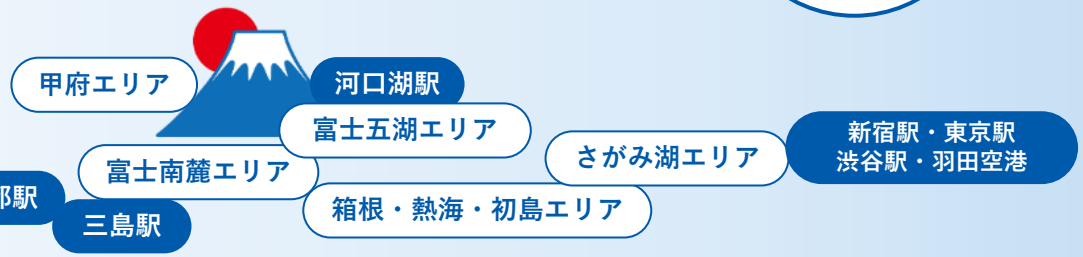
レジャー　宿泊　運輸　旅行会社

地域社会
普段使いの場所
日常空間

Fujiyama Connect

Phase ❸

Greater Mt. FUJI



Copyright ©FUJIKYUKO.CO., LTD. All Rights Reserved.

目標とする経営指標・重要指標

【目標とする経営指標】

	26.3期　実績	29.3期　目標
1. 営業収益	535億円	630億円
2. 営業利益 EBITDA（営業利益＋減価償却費）	88億円 （143億円）	105億円 （185億円）
3. 経常利益	86億円	98億円
4. 親会社株主に帰属する当期純利益	58億円	62億円
5. 営業利益率	16.4%	16.7%
6. ROA	8.5%	8.2%
7. ROE	15.0%	12%以上 中長期：14%以上
8. ネットDEレシオ（ネット有利子負債残高）	0.8倍（313億円）	1.0倍以下（380億円目安）

【重要指標】

	26.3期　実績	中長期目標
Greater Mt.Fuji エリア 当社グループ利用者数	1,939万人	3,000万人

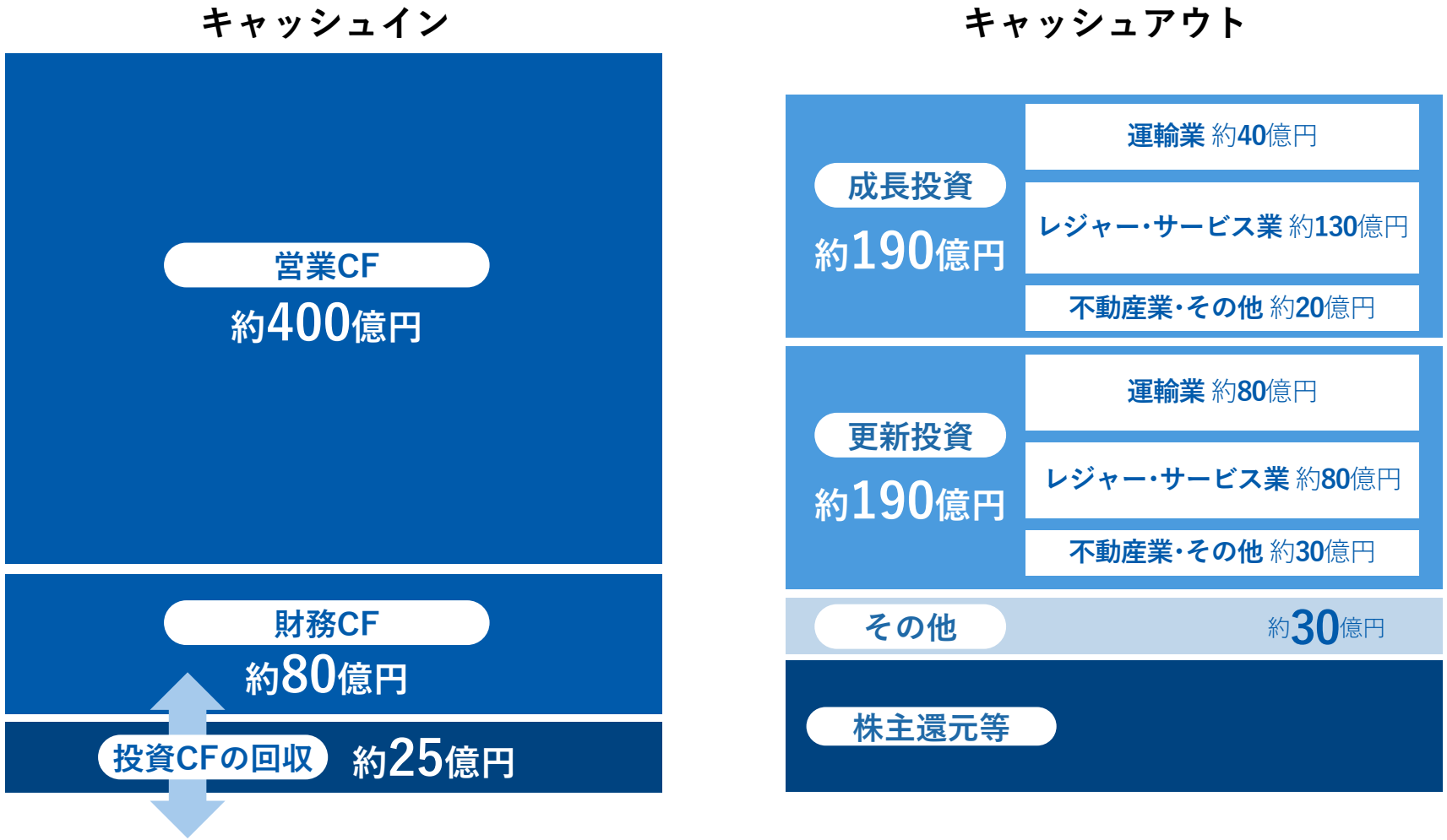
【株主還元】

- 継続的かつ安定的な配当を行うことを基本方針とする
- 業績やDOE、連結配当性向30%を目途に総合的に勘案し、利益成長による配当額の増加を目指す
- 機動的な自己株式取得

Copyright ©FUJIKYUKO.CO., LTD. All Rights Reserved.

キャッシュアロケーション

- 事業活動及び負債活用等により調達した資金は、将来CFの極大化に向けて、成長投資を中心に戦略的に配分
- 政策保有株式を縮減する方針（対純資産比率で20%未満を目標）
- 株主還元は安定的な配当と機動的な自己株式取得を基本に、BSマネジメント方針と位置づける



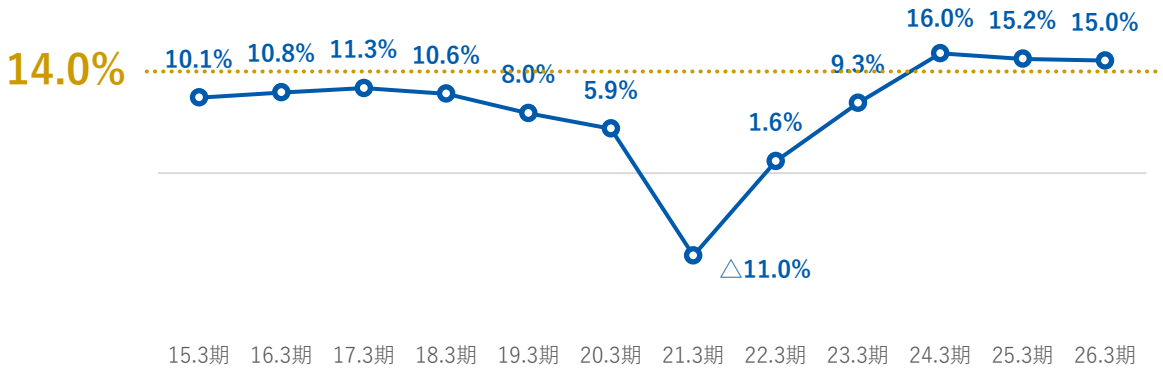
Copyright ©FUJIKYUKO.CO., LTD. All Rights Reserved.

企業価値の向上（資本コストや株価を意識した経営の実現）に向けた中期的な方針

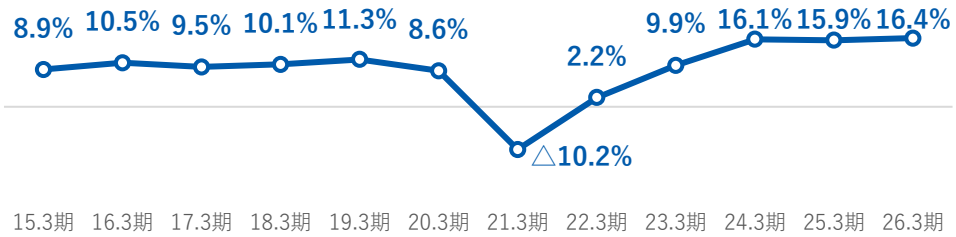
中長期的には株主資本コストを上回るROE14%以上を目指す

ROE	当期純利益	限界利益	「ULTRA Q」推進や成長投資等によるトップライン伸長
		固定費	固定費コントロールの徹底
		その他損益	投資CFの回収
	株主資本	配当金	利益成長による配当額の増加
		自己株式	機動的な取得

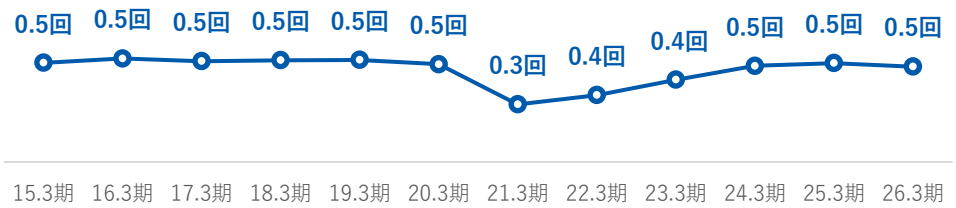
ROE（%）



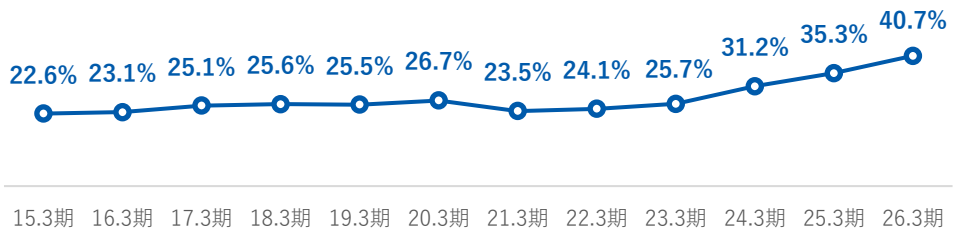
営業利益率（%）



総資産回転率（回）



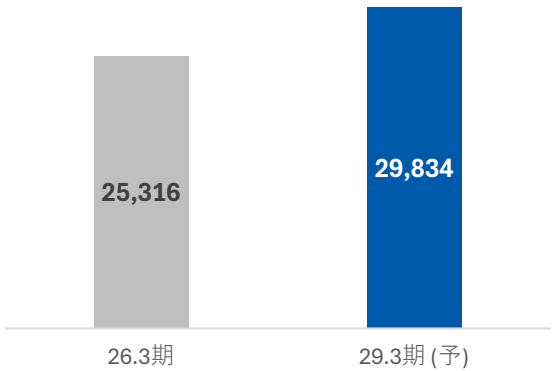
自己資本比率（%）



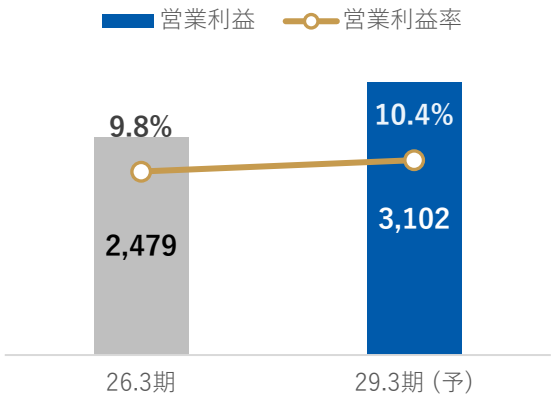
Copyright ©FUJIKYUKO.CO., LTD. All Rights Reserved.

重点施策１　レジャー・サービス業

営業収益（百万円）



営業利益、営業利益率（百万円、%）



遊園地事業

- **富士急ハイランド**
  - ライドパークとしての進化とカルチャーの発信地としての多様なコンテンツを提供し、地域交流拠点及び富士五湖観光のハブ拠点化
- **さがみ湖 MORI MORI**
  - 首都圏近郊の強みを生かした、森と自然をテーマとした体験型アクティビティの拡充
  - 遊園地、温泉、キャンプが融合した滞在型リゾートとしての魅力向上
- **ぐりんぱ、イエティ**
  - 遊園地とキャンプを融合し、様々なアクティビティを提供するアウトドアウェルネスリゾートへ転換

ホテル事業

- **ハイランドリゾートホテル＆スパ**
  - 富士五湖エリア最大の客室数を保持するシンボリックホテルとしての地位を確立
- **ホテルマウント富士**
  - グローバル販売拡大に向けた基盤を構築

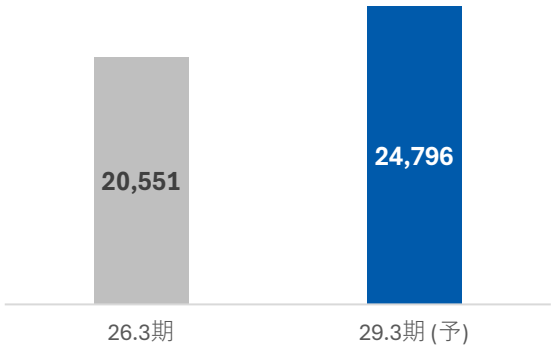
その他

- **十国峠**
  - ケーブルカーをスロープカーへ更新
  - 「眺望」と「自然・歴史・伝説」が融合した『天空の価値体験』を提供し、地域と協働して「箱根～熱海」を繋ぐ拠点に進化

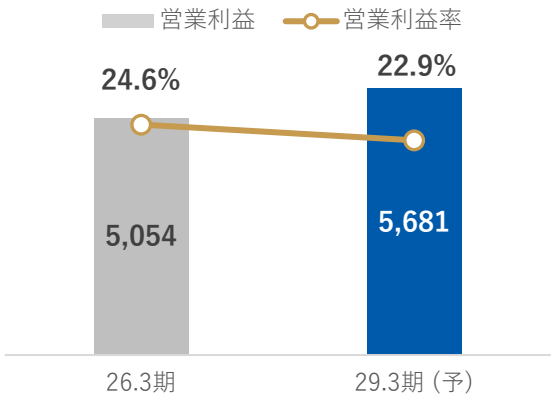
Copyright ©FUJIKYUKO.CO., LTD. All Rights Reserved.

重点施策２　運輸業

営業収益（百万円）



営業利益、営業利益率（百万円、%）



鉄道事業

- 輸送力の増強、観光鉄道としての価値向上

バス事業

- 運賃改定等による処遇改善で運転士を確保し、輸送力を増強
  - ① 乗合バス
    周遊バスの速達化、経路変更及び大型車両導入を計画
    運賃改定や赤字路線の削減を進め、収益力を向上
  - ② 高速バス
    予約発券システム「SEKITORI」の運用拡大
    プレミアムシート付き車両導入による高付加価値化
  - ③ 貸切バス
    安全評価の最高評価獲得、契約単価引き上げ等による新規需要創出と事業競争力の強化
  - ④ 水陸両用バス
    新車両導入による、体験価値向上
  - ⑤ 運転士の処遇改善、職場環境改善
    給与水準の引き上げ、新規採用や外国人運転士採用を強化

船舶事業

- 河口湖新航路による回遊性の向上

Copyright ©FUJIKYUKO.CO., LTD. All Rights Reserved.

重点施策３　安全

全事業における目標

① 「重大事故」「インシデント」ゼロ

② 有責事故全体数を毎年対前年１割以上削減

継続的な改善事項

① 安全マネジメントの推進
（安全重点施策の進捗確認、継続的指導、労働災害に関する項目の追加など）

② 安全の取り組みに関する情報の外部への積極的配信（HP等）

③ ５Ｓの推進

④ 防災マネジメントの推進（富士山噴火、南海トラフ地震）

安全管理のDX化推進

① 特に事故発生頻度の高いバス事業における取り組み
- バス車両の接触防止の後付警告装置の設置推進
- ドライブレコーダー指導における、AIを活用したリスク抽出システム導入

② 生成AIを活用した「予知保全」の仕組みの研究と段階的導入
- 過去の修繕データや日々の点検データを収集･分析し、生成AIを活用した遊戯施設や索道支柱等の巨大構造物などの効果的な点検方法を研究

安全文化の醸成

① 中間管理者層の教育の強化
- 全事業横断型の「安全統括管理者」の会議や教育の実施
- バス、ハイタクの運行管理者教育の継続的実施
（毎月の短時間リモート教育と閑散期の年１回の集合教育）
- バス、ハイタクの点呼場に動画視聴と指導用のモニター設置

② 安全統括室による事業所へ入り込んだ指導の実施
- 富士急ハイランドを参考に、相模湖リゾートにおけるマニュアルの見直し
- 車両工場（富士急オートサービスやフジエクスプレス）、電車工場（富士山麓電気鉄道、岳南電車）における道具管理の方法の見直しと指導

③ インバウンドへの安全啓蒙強化（避難誘導訓練や案内誘導表示の多言語化）

④ グループ全体やエリアでの合同訓練や訓練の強化、労災も含めた事故防止の啓蒙活動の実施



構造の安全性を確認する身延登山鉄道での支柱健全度調査



大月警察署・大月消防署・JR大月駅・当社合同の訓練風景



全事業横断型の「安全統括管理者」会議や教育を実施

Copyright ©FUJIKYUKO.CO., LTD. All Rights Reserved.

重点施策４　人材戦略

富士急グループの人材に関する基本方針

世界中から訪れる全てのお客様に「安心・安全」で「快適」な質の高いサービス・商品を提供するため、社員一人ひとりが常に「チャレンジ」し、「イノベーション」を追求できる機会を整備するとともに、多様な人材が融合し、「健康」で活き活きと活躍できる環境づくりを推進していきます。

人材育成方針　●グループ会社を統率する経営幹部の育成　●個性を活かし、自ら考え、行動する人材の育成　●新たな価値を創造するイノベーション人材の育成

Human Resources Vision

アップスキリングの推進

社員の個々の能力を更に伸ばし、成長するために、アップスキリングを推進し、高い専門性を持ったDXやイノベーション人材を育成していきます

DE&Iの推進

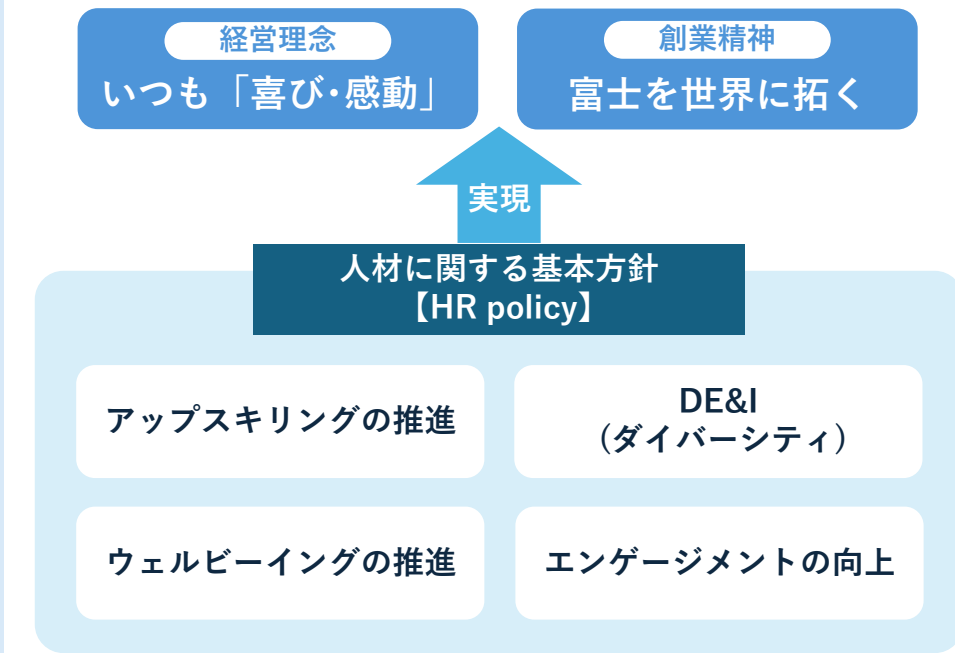
性別や国籍、年齢などにかかわらず、多様な人材が公平・公正に個々の能力を最大限に発揮できる取り組みを進めていきます

ウェルビーイングの推進

社員の心身の健康が、お客様への「安心･安全」や質の高いサービスにつながることを常に意識し、社員一人ひとりとその家族に寄り添った取り組みを実施していきます

エンゲージメントの向上

全ての社員がワクワク感と夢をもって「チャレンジ」できる職場環境と、当社ならではの働きやすい人事施策に取り組みます



Copyright ©FUJIKYUKO.CO., LTD. All Rights Reserved.

MEMO

Copyright ©FUJIKYUKO.CO., LTD. All Rights Reserved.

MEMO

Copyright ©FUJIKYUKO.CO., LTD. All Rights Reserved.



- ✓ 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記載は、本資料の発表日現在における将来の見通し、計画のもととなる前提、予測を含んで記載しており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績は、今後様々な要因によって、大きく異なる結果となる可能性があります。
- ✓ 本資料には監査を受けていない概算値を含むため、数値が変更になる可能性があります。
- ✓ 本資料の金額は、切り捨てで表示しております。